

国立淡路青少年交流の家 渡り廊下棟耐震補強工事

図面リスト			
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-01	図面リスト	S-01	プレキャストコンクリート工事仕様書
A-02	特記仕様書 1	S-02	PC 伏図・軸組図・断面リスト
A-03	特記仕様書 2	S-03	PC 架構図、定着端詳細図、壁部取合詳細図
A-04	特記仕様書 3	S-04	PC 床・基礎部取合詳細図
A-05	特記仕様書 4		
A-06	特記仕様書 5		
A-07	平面図 1・2 F		
A-08	平面図 3 F		
A-09	立面図		
A-10	断面図		

図面は12月5日公布予定

Project title: 国立淡路青少年交流の家 渡り廊下棟耐震補強工事 設計図. Date: 平成 年 月 (全 秋). Section: 仕様書. Sub-section: I 工事概要. Content: 1. 工事場所: 兵庫県南あわじ市阿万塩町757-39. 2. 建物概要: 鉄筋コンクリート造 3階建て 延床面積: 132㎡ 施工年: 昭和43年. 3. 工事種目: 1. 耐震補強・改修工事. 4. 工事期間: 本工事の工期は、設計書及び現場説明書による. 5. 担保期間: 本工事担保期間は、工事目的物引渡しの日から 24ヶ月間 とする.

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 特記事項 (Special Notes). Items include: 1. 通用基準等 (General standards), 2. 工事実績情報の登録 (Registration of work performance information), 3. 品質計画等 (Quality planning), 4. 電気保安技術者 (Electrical safety technician), 5. 条件明示項目 (Conditions for work items), 6. 発生材の処理等 (Handling of generated materials), 7. 建築材料等 (Building materials).

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 8. 化学物質を発生する建築材料等 (Chemical substances in building materials), 9. 特別な材料の工法 (Special construction methods), 10. 技能士 (Technicians), 11. 化学物質の濃度測定 (Chemical concentration measurement), 12. 完成図等 (Final drawings), 13. 設備工事との取り合い (Coordination with equipment work), 14. 設計GL (Design GL), 15. 工事写真 (Construction photos), 16. 施工条件 (Construction conditions), 17. 施工計画書(施工要領書) (Construction plan), 18. 工事標示板等の設置 (Installation of signs), 19. 工事用の進入路 (Access for construction).

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 20. 施工条件 (Construction conditions), 21. 地元工事説明 (Local work explanation), 22. 施工条件 (Construction conditions), 23. 別途工事との関連 (Relation to other work), 24. 仮設工事 (Temporary work), 25. 仮設開仕切りの種別 (Types of temporary work), 26. 現場事務所 (Site office), 27. 工事用水 (Construction water), 28. 工事用電力 (Construction electricity), 29. 仮囲い (Temporary enclosure), 30. 現場事務所 (Site office), 31. 工事用水 (Construction water), 32. 工事用電力 (Construction electricity), 33. 仮囲い (Temporary enclosure), 34. 仮設物の設置場所 (Location of temporary structures), 35. 落下物、飛散物等による危害の防止 (Prevention of hazards from falling objects).

Table with 2 columns: Item number and Description. Items include: 10. 洗車設備 (Car wash equipment), 11. 仮排水 (Temporary drainage), 3. 防水改修工事 (Waterproofing work), 2. 改質アスファルトシート防水 (Revised asphalt sheet waterproofing), 3. 合成高分子系ルーフィングシート防水 (Synthetic high polymer system roofing sheet waterproofing), 4. 塗膜防水 (Coating waterproofing), 5. 脱気装置 (Degassing device), 6. シーリング (Sealing), 7. とい (Waterproofing).

5 建築改修工事	10 木製建具	かまち戸の仕様 かまち () 鏡板 () (16.6.2) ふすまの上張り ※新糸の子又はビニル紙程度 (挿入等の裏面は除く) (表16.6.3) 鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (16.6.2) ※規制対象外 ・第三種	6 内装改修工事	6 集材等 (表6.5.2)	6 内装改修工事	20 カーペット敷き	・織じゅうたん (6.9.2.3) [表6.9.1] 種 別 バイル形状 色柄等 備考 ・A種 ・カットバイル ※無地 ・B種 ・ループバイル ※柄物 (標準品) ・C種 ・カット、ループバイル併用 耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・タフテッドカーペット (6.9.2.3) [表6.9.2] バイル形状 バイル長 (mm) 工 法 備考 ・カットバイル ※5~7 ※全面接着工法 ・ループバイル ※4~6 ・グリッパー工法 ・カット、ループ併用 耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・タイルカーペット (6.9.2.3) [表6.9.2] バイル形状 種 類 種 類 総厚さ (mm) 備考 ※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・カットバイル ・カット、ループ併用 耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 (フリーアクセスフロア敷設範囲) ・ニードルパンチカーペット 厚さ (4.0mm) (6.13.2) [表6.13.1] 種 類 JISの記号 厚さ (mm) 規格等 ・硬質モセメント板 HW (G) ・15 ・20 ・25 ・普通モセメント板 NW (G) ・15 ・20 ・25 ・硬質木片セメント板 NF (G) ・15 ・20 ・25 ・12 ・けい酸カシム板 0.8FK タイプ2 (無石棉) (・6・8・12) ・ロックウール化粧吸音板 DR ※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12) (※凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19)) ・せつこうボード GB-R ※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃) ・不燃積層せつこうボード GB-NC 9.5 (不燃) 化粧用 (下地張り用) 化粧用 (トラバーチン模様) ・シーリングせつこうボード GB-S 12.5 (不燃) ・強化せつこうボード GB-F 12.5 (不燃) 15.0 (不燃) ・せつこうボード GB-L 9.5 ・化粧せつこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅40mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き ・普通合板 (難燃処理) (G) ・生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903による 厚さ1.2 ・ミディアムデンシティ MDF (G) ・素地MFD (RS) 化粧MDF (・DV・00・PC) ・3 ・7 ・9 ・ファイバーボード ・単板張りパーティクルボード (G) ・無屑屑板VN ・研磨板VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・ハードボード (素地) HB (G) ・素地 ・RN-HB ・RS-HB ・25 ・35 ・5 ・7 ・インシュレーションボード IB (G) ・T-1B ・A-1B ・S-1B ・9 ・12 ・15 ・18 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない	26 断熱材 (19.9.2.3)	種 別 種 類 厚さ (mm) 品質等 ・押出法 ※2種b ※一部 ※25 ※ノンフロンのもの (G) ポリスチレン ※3種b ・接地点 ※25 ・特定フロンを使用しないもの フォーム 保温板 (スチン層付) ・ ※15 ノンフロンタイプ (G) ・現場発泡断熱材 ※断熱材補修部分 ―― HFタイプ ・一般部 ※15 難燃性 ※3級・2級 ・ 難燃材料組成品 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ウリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	27 浴室天井材	市販品 材 質 表面仕上げ 性能 幅 (mm) 備考 ※アルミニウム製 ※焼付け塗装品 準不燃品 ※200 回り縁は種付き ・アルマイト処理品 ・100 として、製造所の ・硬質塩ビ製 ※塗装品 ※300 標準品とする。 ・木目調 ・100	28 フリーアクセスフロア (20.2.2)	施工箇所 構 法 仕上り高 (mm) 適用地震時 水平力 耐荷重性能 表面仕上げ材 備考 健康福祉課 ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル 市民生活課 ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット 耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第132号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。 表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による スロープ及びビーター ※製造所の標準仕様 ・図示 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設置工事) コンセントの箇所数は図示 配線取り出しパネル 配線取り出し開口: パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20~30パーセント 空調用吹き出しパネル 無し ・有り (※図定式 ・可変式 : 施工箇所は図示)	29 可動間仕切 (20.2.3)	構造形式 パネル部の 表面材種 表面仕上げ 遮音性能 防火性能 総厚さ (mm) 厚さ (mm) ・スタッド式 ・ ※鋼板 ※メラミン樹脂又は ・あり ・スタッドパネル式 ・ ※鋼板 (※0.6・0.8) アクリル樹脂接着付 () ・なし ・パネル式 ・ ・ ・なし	30 移動間仕切 (20.2.4)	遮音性能 厚さ (mm) 表面材 表面仕上げ 操作方法 ・一般タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 ・遮音タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 (36db以上) ・ ・ ・	31 トイレブース (20.2.5)	表面仕上げ材 ※メラミン樹脂系化粧板 (標準色 アルミ製コーナーエッジ付き) ・ポリエステル樹脂系化粧板 足形状 ※幅木型 ・足金脚型	32 階段滑止め (20.2.6)	材 種 ステンレスSUS304 形 状 ビニルタイヤ入り 両端フラットエンド ※有り (・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し 幅 (mm) 約35 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法	33 階段手すり (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	34 黒板及び ホワイトボード (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	35 表示 (20.2.10)	衝突防止表示 ※図示 (市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・) (・両面 ・片面) ・無し 表示構法 案内用図記号についてはJIS Z 8210による 誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。 製造所 監督職員の承諾する製造所	36 ブラインド (2.3.1) [5.1.6] (20.2.12)	・既存再使用する (養生方法:) ・新設する 形 式 種 類 スラットの材質 ※横型 ※ギヤ式 ・コード式 ※アルミニウム合金製 ※25 ・操作棒式 ・縦型 ・1本操作コード ・アルミスラット ・80 ・2本操作コード ・クロススラット ・100	37 ロールスクリーン (20.2.13)	防火性能 ※有り 製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する (20.2.13) 施工箇所 装 置 性 能 備 考 電動 手引 (防火性能) ・ ・ ・ ・	
	11 建具用金物	マスターキー ※製作する ・製作しない 建具用金物 (5.6.2.3) [表5.6.1.2] 錠類はシリング類 (レバーハンドル) とする なお、錠前類は建具製作所の指定のものとし、監督職員の承諾を受ける 吊金物 ・丁番 (内部建具については、軸を鉄芯としてもよい) ・ピボットヒンジ	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	21 セつこうボードその他のボード張り (6.13.2) [表6.13.1]	種 類 JISの記号 厚さ (mm) 規格等 ・硬質モセメント板 HW (G) ・15 ・20 ・25 ・普通モセメント板 NW (G) ・15 ・20 ・25 ・硬質木片セメント板 NF (G) ・15 ・20 ・25 ・12 ・けい酸カシム板 0.8FK タイプ2 (無石棉) (・6・8・12) ・ロックウール化粧吸音板 DR ※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12) (※凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19)) ・せつこうボード GB-R ※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃) ・不燃積層せつこうボード GB-NC 9.5 (不燃) 化粧用 (下地張り用) 化粧用 (トラバーチン模様) ・シーリングせつこうボード GB-S 12.5 (不燃) ・強化せつこうボード GB-F 12.5 (不燃) 15.0 (不燃) ・せつこうボード GB-L 9.5 ・化粧せつこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅40mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き ・普通合板 (難燃処理) (G) ・生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903による 厚さ1.2 ・ミディアムデンシティ MDF (G) ・素地MFD (RS) 化粧MDF (・DV・00・PC) ・3 ・7 ・9 ・ファイバーボード ・単板張りパーティクルボード (G) ・無屑屑板VN ・研磨板VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・ハードボード (素地) HB (G) ・素地 ・RN-HB ・RS-HB ・25 ・35 ・5 ・7 ・インシュレーションボード IB (G) ・T-1B ・A-1B ・S-1B ・9 ・12 ・15 ・18 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない	26 断熱材 (19.9.2.3)	種 別 種 類 厚さ (mm) 品質等 ・押出法 ※2種b ※一部 ※25 ※ノンフロンのもの (G) ポリスチレン ※3種b ・接地点 ※25 ・特定フロンを使用しないもの フォーム 保温板 (スチン層付) ・ ※15 ノンフロンタイプ (G) ・現場発泡断熱材 ※断熱材補修部分 ―― HFタイプ ・一般部 ※15 難燃性 ※3級・2級 ・ 難燃材料組成品 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ウリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	27 浴室天井材	市販品 材 質 表面仕上げ 性能 幅 (mm) 備考 ※アルミニウム製 ※焼付け塗装品 準不燃品 ※200 回り縁は種付き ・アルマイト処理品 ・100 として、製造所の ・硬質塩ビ製 ※塗装品 ※300 標準品とする。 ・木目調 ・100	28 フリーアクセスフロア (20.2.2)	施工箇所 構 法 仕上り高 (mm) 適用地震時 水平力 耐荷重性能 表面仕上げ材 備考 健康福祉課 ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル 市民生活課 ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット 耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第132号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。 表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による スロープ及びビーター ※製造所の標準仕様 ・図示 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設置工事) コンセントの箇所数は図示 配線取り出しパネル 配線取り出し開口: パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20~30パーセント 空調用吹き出しパネル 無し ・有り (※図定式 ・可変式 : 施工箇所は図示)	29 可動間仕切 (20.2.3)	構造形式 パネル部の 表面材種 表面仕上げ 遮音性能 防火性能 総厚さ (mm) 厚さ (mm) ・スタッド式 ・ ※鋼板 ※メラミン樹脂又は ・あり ・スタッドパネル式 ・ ※鋼板 (※0.6・0.8) アクリル樹脂接着付 () ・なし ・パネル式 ・ ・ ・なし	30 移動間仕切 (20.2.4)	遮音性能 厚さ (mm) 表面材 表面仕上げ 操作方法 ・一般タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 ・遮音タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 (36db以上) ・ ・ ・	31 トイレブース (20.2.5)	表面仕上げ材 ※メラミン樹脂系化粧板 (標準色 アルミ製コーナーエッジ付き) ・ポリエステル樹脂系化粧板 足形状 ※幅木型 ・足金脚型	32 階段滑止め (20.2.6)	材 種 ステンレスSUS304 形 状 ビニルタイヤ入り 両端フラットエンド ※有り (・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し 幅 (mm) 約35 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法	33 階段手すり (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	34 黒板及び ホワイトボード (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	35 表示 (20.2.10)	衝突防止表示 ※図示 (市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・) (・両面 ・片面) ・無し 表示構法 案内用図記号についてはJIS Z 8210による 誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。 製造所 監督職員の承諾する製造所	36 ブラインド (2.3.1) [5.1.6] (20.2.12)	・既存再使用する (養生方法:) ・新設する 形 式 種 類 スラットの材質 ※横型 ※ギヤ式 ・コード式 ※アルミニウム合金製 ※25 ・操作棒式 ・縦型 ・1本操作コード ・アルミスラット ・80 ・2本操作コード ・クロススラット ・100	37 ロールスクリーン (20.2.13)	防火性能 ※有り 製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する (20.2.13) 施工箇所 装 置 性 能 備 考 電動 手引 (防火性能) ・ ・ ・ ・
	12 ガラス	※建具表による (5.12.2) ・ガラスブロック (5.12.5) 寸法 (mm) 色 調 パターン 防火認定 140φ、145□ ※クリア ・熱線反射 ※無し ・乳白 ・カラー () ・有り	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	21 セつこうボードその他のボード張り (6.13.2) [表6.13.1]	種 類 JISの記号 厚さ (mm) 規格等 ・硬質モセメント板 HW (G) ・15 ・20 ・25 ・普通モセメント板 NW (G) ・15 ・20 ・25 ・硬質木片セメント板 NF (G) ・15 ・20 ・25 ・12 ・けい酸カシム板 0.8FK タイプ2 (無石棉) (・6・8・12) ・ロックウール化粧吸音板 DR ※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12) (※凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19)) ・せつこうボード GB-R ※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃) ・不燃積層せつこうボード GB-NC 9.5 (不燃) 化粧用 (下地張り用) 化粧用 (トラバーチン模様) ・シーリングせつこうボード GB-S 12.5 (不燃) ・強化せつこうボード GB-F 12.5 (不燃) 15.0 (不燃) ・せつこうボード GB-L 9.5 ・化粧せつこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅40mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き ・普通合板 (難燃処理) (G) ・生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903による 厚さ1.2 ・ミディアムデンシティ MDF (G) ・素地MFD (RS) 化粧MDF (・DV・00・PC) ・3 ・7 ・9 ・ファイバーボード ・単板張りパーティクルボード (G) ・無屑屑板VN ・研磨板VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・ハードボード (素地) HB (G) ・素地 ・RN-HB ・RS-HB ・25 ・35 ・5 ・7 ・インシュレーションボード IB (G) ・T-1B ・A-1B ・S-1B ・9 ・12 ・15 ・18 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない	26 断熱材 (19.9.2.3)	種 別 種 類 厚さ (mm) 品質等 ・押出法 ※2種b ※一部 ※25 ※ノンフロンのもの (G) ポリスチレン ※3種b ・接地点 ※25 ・特定フロンを使用しないもの フォーム 保温板 (スチン層付) ・ ※15 ノンフロンタイプ (G) ・現場発泡断熱材 ※断熱材補修部分 ―― HFタイプ ・一般部 ※15 難燃性 ※3級・2級 ・ 難燃材料組成品 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ウリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	27 浴室天井材	市販品 材 質 表面仕上げ 性能 幅 (mm) 備考 ※アルミニウム製 ※焼付け塗装品 準不燃品 ※200 回り縁は種付き ・アルマイト処理品 ・100 として、製造所の ・硬質塩ビ製 ※塗装品 ※300 標準品とする。 ・木目調 ・100	28 フリーアクセスフロア (20.2.2)	施工箇所 構 法 仕上り高 (mm) 適用地震時 水平力 耐荷重性能 表面仕上げ材 備考 健康福祉課 ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル 市民生活課 ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット 耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第132号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。 表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による スロープ及びビーター ※製造所の標準仕様 ・図示 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設置工事) コンセントの箇所数は図示 配線取り出しパネル 配線取り出し開口: パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20~30パーセント 空調用吹き出しパネル 無し ・有り (※図定式 ・可変式 : 施工箇所は図示)	29 可動間仕切 (20.2.3)	構造形式 パネル部の 表面材種 表面仕上げ 遮音性能 防火性能 総厚さ (mm) 厚さ (mm) ・スタッド式 ・ ※鋼板 ※メラミン樹脂又は ・あり ・スタッドパネル式 ・ ※鋼板 (※0.6・0.8) アクリル樹脂接着付 () ・なし ・パネル式 ・ ・ ・なし	30 移動間仕切 (20.2.4)	遮音性能 厚さ (mm) 表面材 表面仕上げ 操作方法 ・一般タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 ・遮音タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 (36db以上) ・ ・ ・	31 トイレブース (20.2.5)	表面仕上げ材 ※メラミン樹脂系化粧板 (標準色 アルミ製コーナーエッジ付き) ・ポリエステル樹脂系化粧板 足形状 ※幅木型 ・足金脚型	32 階段滑止め (20.2.6)	材 種 ステンレスSUS304 形 状 ビニルタイヤ入り 両端フラットエンド ※有り (・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し 幅 (mm) 約35 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法	33 階段手すり (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	34 黒板及び ホワイトボード (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	35 表示 (20.2.10)	衝突防止表示 ※図示 (市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・) (・両面 ・片面) ・無し 表示構法 案内用図記号についてはJIS Z 8210による 誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。 製造所 監督職員の承諾する製造所	36 ブラインド (2.3.1) [5.1.6] (20.2.12)	・既存再使用する (養生方法:) ・新設する 形 式 種 類 スラットの材質 ※横型 ※ギヤ式 ・コード式 ※アルミニウム合金製 ※25 ・操作棒式 ・縦型 ・1本操作コード ・アルミスラット ・80 ・2本操作コード ・クロススラット ・100	37 ロールスクリーン (20.2.13)	防火性能 ※有り 製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する (20.2.13) 施工箇所 装 置 性 能 備 考 電動 手引 (防火性能) ・ ・ ・ ・
	13 ガラス留め材及び溝	ガラス留め材 (5.12.2) [表5.12.1] 建具の種類 材 種 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガスケット (FIX部はシーリング材) 鋼製及び鋼製軽量 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 板ガラスをはめ込む溝の大きさ 改修標準5.12.3以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は (社) 日本建築学会 JASS17 ガラス工事 「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する。	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	21 セつこうボードその他のボード張り (6.13.2) [表6.13.1]	種 類 JISの記号 厚さ (mm) 規格等 ・硬質モセメント板 HW (G) ・15 ・20 ・25 ・普通モセメント板 NW (G) ・15 ・20 ・25 ・硬質木片セメント板 NF (G) ・15 ・20 ・25 ・12 ・けい酸カシム板 0.8FK タイプ2 (無石棉) (・6・8・12) ・ロックウール化粧吸音板 DR ※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12) (※凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19)) ・せつこうボード GB-R ※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃) ・不燃積層せつこうボード GB-NC 9.5 (不燃) 化粧用 (下地張り用) 化粧用 (トラバーチン模様) ・シーリングせつこうボード GB-S 12.5 (不燃) ・強化せつこうボード GB-F 12.5 (不燃) 15.0 (不燃) ・せつこうボード GB-L 9.5 ・化粧せつこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅40mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き ・普通合板 (難燃処理) (G) ・生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903による 厚さ1.2 ・ミディアムデンシティ MDF (G) ・素地MFD (RS) 化粧MDF (・DV・00・PC) ・3 ・7 ・9 ・ファイバーボード ・単板張りパーティクルボード (G) ・無屑屑板VN ・研磨板VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・ハードボード (素地) HB (G) ・素地 ・RN-HB ・RS-HB ・25 ・35 ・5 ・7 ・インシュレーションボード IB (G) ・T-1B ・A-1B ・S-1B ・9 ・12 ・15 ・18 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない	26 断熱材 (19.9.2.3)	種 別 種 類 厚さ (mm) 品質等 ・押出法 ※2種b ※一部 ※25 ※ノンフロンのもの (G) ポリスチレン ※3種b ・接地点 ※25 ・特定フロンを使用しないもの フォーム 保温板 (スチン層付) ・ ※15 ノンフロンタイプ (G) ・現場発泡断熱材 ※断熱材補修部分 ―― HFタイプ ・一般部 ※15 難燃性 ※3級・2級 ・ 難燃材料組成品 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ウリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	27 浴室天井材	市販品 材 質 表面仕上げ 性能 幅 (mm) 備考 ※アルミニウム製 ※焼付け塗装品 準不燃品 ※200 回り縁は種付き ・アルマイト処理品 ・100 として、製造所の ・硬質塩ビ製 ※塗装品 ※300 標準品とする。 ・木目調 ・100	28 フリーアクセスフロア (20.2.2)	施工箇所 構 法 仕上り高 (mm) 適用地震時 水平力 耐荷重性能 表面仕上げ材 備考 健康福祉課 ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル 市民生活課 ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット 耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第132号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。 表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による スロープ及びビーター ※製造所の標準仕様 ・図示 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設置工事) コンセントの箇所数は図示 配線取り出しパネル 配線取り出し開口: パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20~30パーセント 空調用吹き出しパネル 無し ・有り (※図定式 ・可変式 : 施工箇所は図示)	29 可動間仕切 (20.2.3)	構造形式 パネル部の 表面材種 表面仕上げ 遮音性能 防火性能 総厚さ (mm) 厚さ (mm) ・スタッド式 ・ ※鋼板 ※メラミン樹脂又は ・あり ・スタッドパネル式 ・ ※鋼板 (※0.6・0.8) アクリル樹脂接着付 () ・なし ・パネル式 ・ ・ ・なし	30 移動間仕切 (20.2.4)	遮音性能 厚さ (mm) 表面材 表面仕上げ 操作方法 ・一般タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 ・遮音タイプ ・ ※鋼板 ・焼付け塗装 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 (36db以上) ・ ・ ・	31 トイレブース (20.2.5)	表面仕上げ材 ※メラミン樹脂系化粧板 (標準色 アルミ製コーナーエッジ付き) ・ポリエステル樹脂系化粧板 足形状 ※幅木型 ・足金脚型	32 階段滑止め (20.2.6)	材 種 ステンレスSUS304 形 状 ビニルタイヤ入り 両端フラットエンド ※有り (・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し 幅 (mm) 約35 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法	33 階段手すり (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	34 黒板及び ホワイトボード (20.2.8)	種 別 寸法 (mm) 色 彩 備 考 ・黒板 ※焼付け ※緑 ・黒 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分 ・ホワイト ※ほうろう ※白 ※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	35 表示 (20.2.10)	衝突防止表示 ※図示 (市販品 ※ステンレス製 径約30mm ・) (・両面 ・片面) ・無し 表示構法 案内用図記号についてはJIS Z 8210による 誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。 製造所 監督職員の承諾する製造所	36 ブラインド (2.3.1) [5.1.6] (20.2.12)	・既存再使用する (養生方法:) ・新設する 形 式 種 類 スラットの材質 ※横型 ※ギヤ式 ・コード式 ※アルミニウム合金製 ※25 ・操作棒式 ・縦型 ・1本操作コード ・アルミスラット ・80 ・2本操作コード ・クロススラット ・100	37 ロールスクリーン (20.2.13)	防火性能 ※有り 製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する (20.2.13) 施工箇所 装 置 性 能 備 考 電動 手引 (防火性能) ・ ・ ・ ・
	14 ガラス用フィルム	名 称 種 類 張り面 性能値 ※ガラス飛散防止フィルム 第2種 ※内張り ・外張り 飛散防止率 DI 品質JIS A 5759Iによる	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	6 接着剤 (6.5.2)	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※木工事に使用する接着剤 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「ユリア樹脂等」という。) を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	21 セつこうボードその他のボード張り (6.13.2) [表6.13.1]	種 類 JISの記号 厚さ (mm) 規格等 ・硬質モセメント板 HW (G) ・15 ・20 ・25 ・普通モセメント板 NW (G) ・15 ・20 ・25 ・硬質木片セメント板 NF (G) ・15 ・20 ・25 ・12 ・けい酸カシム板 0.8FK タイプ2 (無石棉) (・6・8・12) ・ロックウール化粧吸音板 DR ※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12) (※凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19)) ・せつこうボード GB-R ※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃) ・不燃積層せつこうボード GB-NC 9.5 (不燃) 化粧用 (下地張り用) 化粧用 (トラバーチン模様) ・シーリングせつこうボード GB-S 12.5 (不燃) ・強化せつこうボード GB-F 12.5 (不燃) 15.0 (不燃) ・せつこうボード GB-L 9.5 ・化粧せつこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅40mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き ・普通合板 (難燃処理) (G) ・生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903による 厚さ1.2 ・ミディアムデンシティ MDF (G) ・素地MFD (RS) 化粧MDF (・DV・00・PC) ・3 ・7 ・9 ・ファイバーボード ・単板張りパーティクルボード (G) ・無屑屑板VN ・研磨板VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・ハードボード (素地) HB (G) ・素地 ・RN-HB ・RS-HB ・25 ・35 ・5 ・7 ・インシュレーションボード IB (G) ・T-1B ・A-1B ・S-1B ・9 ・12 ・15 ・18 合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない	26 断熱材 (19.9.2.3)	種 別 種 類 厚さ (mm) 品質等 ・押出法 ※2種b ※一部 ※25 ※ノンフロンのもの (G) ポリスチレン ※3種b ・接地点 ※25 ・特定フロンを使用しないもの フォーム 保温板 (スチン層付) ・ ※15 ノンフロンタイプ (G) ・現場発泡断熱材 ※断熱材補修部分 ―― HFタイプ ・一般部 ※15 難燃性 ※3級・2級 ・ 難燃材料組成品 ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ウリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	27 浴室天井材	市販品 材 質 表面仕上げ 性能 幅 (mm) 備考 ※アルミニウム製 ※焼付け塗装品 準不燃品 ※200 回り縁は種付き ・アルマイト処理品 ・100 として、製造所の ・硬質塩ビ製 ※塗装品 ※300 標準品とする。 ・木目調 ・100	28 フリーアクセスフロア (20.2.2)	施工箇所 構 法 仕上り高 (mm) 適用地震時 水平力 耐荷重性能 表面仕上げ材 備考 健康福祉課 ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル 市民生活課 ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット ・パネル構法 ・1.0G ・3,000N ・帯電防止床タイル ・溝構法 ・0.6G ・5,000N ・タイルカーペット 耐震性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第132号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。 表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による スロープ及びビーター ※製造所の標準仕様 ・図示 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設置工事) コンセントの箇所数は図示 配線取り出しパネル 配線取り出し開口: パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20~30パーセント 空調用吹き出しパネル 無し ・有り (※図定式 ・可変式 : 施工箇所は図示)	29 可動間仕切 (20.2.3)	構造形式 パネル部の 表面材種 表面仕上げ 遮音性能 防火性能 総厚さ (mm) 厚さ (mm) ・スタッド式 ・ ※鋼板 ※メラミン樹脂又は ・あり ・スタッドパネル式 ・ ※鋼板 (※0.6・0.8) アクリル樹脂接着付 () ・なし ・パネル式 ・ ・ ・なし	30 移動間仕切 (20.															

6 内装 改修 工事	38 カーテン	・既存再使用する（養生方法：仮置き） ・新設する	[2.3.1] [5.1.6] [20.2.14]
	39 カーテンレール	・既存再使用する ・新設する 材種 ※アルミニウム製 形式 ・片引き ・引分け（※標準用は300mm以上の召合せの重掛けとする）	[5.1.6] [20.2.14]
	40 ブラインドボックス 及びカーテンボックス	・既存再使用する ・新設する 市販品（アルミニウム製 押し出し型材） 溝幅×深さ（mm） ※90×150 ※120×80 ※120×150 ※150×80 色彩 ※B-1 ・B-2（※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー） ・図示	[5.1.6]
	41 天井点検口	材質 アルミニウム製（※縦線タイプ ・目地タイプ）	
	42 床点検口	材質 アルミニウム製（受け枠 ※アルミ製 ・ステンレス製）	
43 鋼製書架及び物品棚	種類 規格等 耐荷重による種類 ・鋼製書架 JIS S 1039の規格による ・1種 ・2種 ・3種 ・鋼製物品棚 ・4種 ・5種 ・6種		
44 くつろぎマット	市販品 材質 ・塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製受枠） ・ビニル製（ステンレス製受枠） ・硬質アルミニウム製（受枠とも） ・ステンレス製（受枠とも）		
45 流し台ユニット	種類 寸法（L×W×mm） 適用内容 規格・品質等 ・流し台 ※1200 ・1500 ・1800 トラップ付き ※優良住宅部品 ・コンロ台 ※600 ・700 バックガード ※有り （セクショナルキッチンⅠ型） ・つり戸棚 ※1200 ・900 ・600 ・水切り棚 ※1200 ・900 ステンレス製 ※1段式 ※市販品		
46 屋内掲示板	枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩化ビニルシート張り		
47 洗面カウンター	材種 ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材） ・人工大理石 奥行き（mm） ・約450 ・約600		
48 収納家具	材質 形状・寸法 ※図示 合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	[12.2.2] [19.7.2]	
49 防煙垂れ壁	・固定式 材質 厚さ（mm） 高さ（mm） 備考 ※網入り磨板ガラス ※6.8 ※500 アルミ製枠付き ・網入り磨板ガラス		
	・可動式 材質 厚さ（mm） 高さ（mm） 備考 ・垂直降下式 ※不燃布 ※500 ガイドレール （巻取り型）（不燃認定品） ・800 ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型） ・回転降下式 鋼板製又はアルミ製 ※500 表面仕上げ ・800 ※天井材張り ・		
50 既設木造床の調整	降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型） ・既設床框（フローリング仕上面）の床鳴り、きしみ等が発生している部分は補修する事		
51 コーナービード	材種 ※ステンレス ・アルミニウム合金 ・既製品（図示） 高さ ・1.8m程度 ・天井まで		
52 天井見切り縁	※アルミニウム製 ・塩化ビニル製		
53 床見切り押え金物	材質 ・ステンレス製 形状 ・への字型（幅 1.2 mm） ・ハット型（幅 1.0 mm） ・図示		
54 天井スバンドレル	材質 ・アルミニウム製 形状 ・リブ型 カラー電解着色（厚 1.0 mm）		

7 塗装 改修 工事	1 材料	壁内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。 建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種	[7.1.3]
	2 下地調整	下地の種類 下地調整の種類 備考 木部 ・RA種 ※RB種 鉄鋼面 ・RA種 ※RB種 垂れめつき面 ・RA種 ※RB種 垂れめつき面（鋼製建具） ※RB種 ・RC種 モルタル、プラスチック面 ・RA種 ※RB種 コンクリート、ALCパネル面 ・RA種 ※RB種 (2-UE) ・(2-AE)及び(2-FUE)は除く せつこうボード、その他ボード面 ・RA種 ※RB種 既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 ※行わない ・行う（補修範囲及び補修方法は図示）	[7.2.2~7] [表7.2.1~7]
	3 合成樹脂調合ペイント塗り	新規鉄面の塗りの種類 ・A種 ※B種	[7.4.4] [表7.4.2]
	4 フタル酸樹脂エナメル塗り	新規木部の塗りの種類 ・A種 ※B種 新規鉄面、垂れめつき面の塗りの種類 ・A種 ※B種	[7.5.2] [表7.5.1] [7.5.3] [表7.5.2]
	5 2液ポリウレタンエナメル塗り	下地の種類 新規塗りの種類 塗り替えの種類 備考 鉄面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種 垂れめつき面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種 コンクリート及び押出成形セメント板面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種	[7.8.2~4] [表7.8.1~3]
	6 アクリルシリコン樹脂エナメル塗り	新規鋼製建具等 ※B種	[7.9.3] [表7.9.2.3]
	7 常温乾燥粉末系樹脂エナメル塗り	下地の種類 新規塗りの種類 塗り替えの種類 備考 鉄面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種 垂れめつき面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種 コンクリート及び押出成形セメント板面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種	[7.10.2~4] [表7.10.1~3]
	7a 耐候性塗料塗り	上塗り塗料の等級 ・1級 ○2級 ・3級 下地の種類 新規塗りの種類 塗り替えの種類 備考 鉄面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種 垂れめつき面 ※A種 ・B種 ・A種 ※B種 コンクリート及び押出成形セメント板面 ・A-1種 ・B-1種 ・C-1種 ・A-1種 ・B-1種 ・C-1種 ・A-2種 ・B-2種 ・C-2種 ・A-2種 ・B-2種 ・C-2種	
	8 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り	新規の塗りの種類 ・A種 ※B種	[7.11.2] [表7.11.1]
	9 合成樹脂エマルジョンペイント塗り	新規の塗りの種類 ・A種 ※B種	[7.12.2] [表7.12.1]
10 合成樹脂エマルジョン模様塗り	新規の塗りの種類 ・A種 ※B種 塗り替えの場合 既存塗膜 下地調整 種別 合成樹脂エマルジョン模様塗り ※RB種 ※A種 ・RC種 ※C-3種 平滑な塗料塗り ※RB種 ・A種 ・B種 ・RC種 ・C-1種 ・C-2種	[7.14.2] [表7.14.1]	
8 耐震 改修 工事 及び 耐震 改修 範囲 以外 の 躯体 改修 工事	①鉄筋の種類	種類の記号 呼び名（mm） ○SD295A ※D16以下 ○SD345 ※D19以上	[8.2.1] [表8.2.1]
	②溶接金網	網目の形状、寸法及び鉄線の径 網目の形状、寸法（たて×よこ） 鉄線の径または呼び（mm） 規格 ※100×100 ※6.0 JIS G 3551による	[8.2.2]
	③鉄筋の継手	継手方法 呼び名（mm） 適用箇所 ○ガス圧接 D19以上 ○重ね継手 D16以下 ○フレア溶接	[8.3.4] [表8.3.3]
	④鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、目地底から算定する。 ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。	[8.3.5] [表8.3.6]
	⑤各部の配筋	柱の配筋 帯筋の組立ての形の種別 ・H形 ・W-I形 ※W-II形	[8.3.4] [図8.3.4]
	⑥ガス圧接	圧接部の確認試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験	[8.3.9]
	⑦コンクリートの種類及び強度	レディーミクストコンクリートの種別 ※I類 ・II類 普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c （N/mm ² ） 適用箇所 ○ 18 N/mm ² 土間 ○ 24 + 3N/mm ² 耐震補強	[8.1.3] [表8.1.1] [8.1.3]
		軽量コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c （N/mm ² ） 気体単位容積質量（t/m ³ ） 種別 適用箇所 ※Z1 ・	[8.10.1] [表8.10.1]
		種別 設計基準強度F _c （N/mm ² ） スラブ（cm） 粗骨材の最大寸法 適用箇所 ※普通コンクリート ※18 ※15又は18 ※25mm ・軽量コンクリート ・	[6.14.3]
		設計基準強度F _c （N/mm ² ） ・27 ・30 ・33 ・36 適用箇所（ ）	[8.9.1.2] [8.9.4]
	混和材料 ※混和剤 ※高性能AE減水剤標準形又は遅延形	[8.9.3]	
	製作場の加工能力 ・監督職員の承認する製作工場 ・建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（株）全国建築工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（M）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。 入熱、バス間温度の溶接条件 適用箇所 ・図示 ※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件 ※図示	[8.1.5]	

⑧ コンクリートの品質	スラブ（cm） 適用箇所 ※21 耐震補強 ○J15 土間	[8.1.4]
	セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定の地、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 水和熱 7d 352J/g以下 28d 402J/g以下	[8.2.5] [表8.2.3]
	混和材料 混和材料の種類 ※混和剤 ○混和材：高性能AE減水剤（耐震補強） ○混和材：AE減水剤（土間）	[8.2.5] [8.5.8]
	柱底等の均しモルタル ※無収縮モルタル ・標準7.10.21によるB種	[8.2.10] (7.10.3) [表7.10.2]
	グラウト材 ※無収縮グラウト材 無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は以下による 無収縮グラウト材 プレミックス及び現場調合形 混和材 セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。 セメント JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。	[8.2.10]
⑨ 普通 コンクリート	無収縮グラウトの品質及び試験方法（現場調合形においては標準使用量・配合値） コンステンション Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒 ブリージング 練り混ぜ2時間後のブリージング率：2.0%以下 凝結時間 凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内 無収縮性 材齢7日 収縮しないこと 圧縮強度 材齢3日 20N/mm ² 以上 材齢28日 40.0N/mm ² 以上 付着強度 材齢28日 2.5N/mm ² 以上 塩化物量 0.30kg/m ² 以下 試験方法 1) 日本道路公団規格（JHS）の「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999による。なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックスのみ試験を行う。 2) 塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストコンクリート」の9.6塩化物量の試験方法による。	
	無収縮モルタル 混和材 セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。 セメント JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 配合比（各重量比） （セメント+混和材）：砂＝1：1	
	無収縮モルタルの品質及び試験方法 コンステンション Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒 ブリージング 練り混ぜ2時間後のブリージング率：2.0%以下 凝結時間 凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内 無収縮性 材齢7日 収縮しないこと 圧縮強度 材齢3日 25.0N/mm ² 以上 材齢28日 45.0N/mm ² 以上 付着強度 材齢28日 3.0N/mm ² 以上 塩化物量 0.30kg/m ² 以下 試験方法 1) 日本道路公団規格（JHS）「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999による。 2) 塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストコンクリート」の9.6塩化物量の試験方法による。	
	種別 設計基準強度F _c （N/mm ² ） スラブ（cm） 粗骨材の最大寸法 適用箇所 ※普通コンクリート ※18 ※15又は18 ※25mm ・軽量コンクリート ・	[6.14.3]
	設計基準強度F _c （N/mm ² ） ・27 ・30 ・33 ・36 適用箇所（ ）	[8.9.1.2] [8.9.4]
⑩ モルタル及び グラウト材	混和材料 ※混和剤 ※高性能AE減水剤標準形又は遅延形	[8.9.3]
	製作場の加工能力 ・監督職員の承認する製作工場 ・建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（株）全国建築工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（M）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。 入熱、バス間温度の溶接条件 適用箇所 ・図示 ※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件 ※図示	[8.1.5]

14 入熱、バス間温度の溶接条件	適用箇所 ※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 ・図示（鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件） ※図示	(7.1.4)
	15 施工管理技術者	※適用する
	16 鋼材	鋼材の材質 [8.2.7] [表8.2.5] 種類の記号 適用箇所 規格等 SS400 ※JIS規格による SM490 ※JIS規格による STKM400B ※JIS規格による
	17 スカラップ	※改良型スカラップ ・ノンスカラップ工法
	18 高力ボルト	高力ボルトの適用 ※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト
19 鉄骨工作仮組	・行う ※行わない	[8.12.9]
20 溶接部の試験	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う	[8.14.11.12]
21 錆止め塗料	・JIS K 5625（シアネド鉛および亜鉛） 屋内（内付け鉄骨ブレース） ・JIS K 5621（一般用および亜鉛） 屋外 カラー、F☆☆☆☆、無鉛、加防錆、脱鉛、脱鉛、 ・常温亜鉛めっきの上 フッ素樹脂塗料塗り 屋外（外付け鉄骨ブレース）	[8.16.2]
22 耐火被覆材	耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う（※JIS K 5622） ※行わない	[8.17.2~6]
⑫ 既存 コンクリート 面の 目録し	種別 所要性能及び適用構造区分 ・ラス張りモルタル塗り ・耐火材 ・乾式吹付けロックウール ・吹付け ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り	
	適用範囲 ※既存コンクリートとの打継ぎ面 ※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充てん部の接合面	[8.19.3] [8.20.3]
	目録らしの範囲 ※柱、梁、壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度 ※壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度	
	目録らしの程度 ※平均深さ5~10mm（最大深さ10~15mm）程度の凹部を施す	
	あと施工アンカーの材料 ・金属系アンカー（耐震補強用） ※接着系アンカー 接着剤の品質 アンカーの種類 ※鉄筋コンクリート用特鋼 ・金ねじボルト	[8.2.4]
⑬ あと 施工 アンカー の 穿孔	穿孔前の埋込み配管等の調査 範囲 ※あと施工アンカー施工部分全て 方法 ※探査器により探査し、配管等の位置の調査を行う ・はつり出しによる	[8.11.2]
⑭ あと 施工 アンカー の 施工 確認 試験	アンカー筋 行う ・行わない	[8.11.5]
27 断熱材兼用型枠	種類 施工箇所 厚さ（mm） 品質等 ・断熱材兼用型枠 ・木質系 ※壁（図示の範囲） ※40以下 断熱抵抗 ・コンクリート系 ・プラスチック系 =厚さ/熱伝導率 =0.676以上 (m ² ・k)/w 製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの	
⑮ 鉄筋 圧接 完了 後の 試験	試験方法 ○行う（※引張試験） ・行わない	
⑯ コンクリート 温度 補正	気温によるコンクリート強度の補正 ※表8.5.1 温度補正は行わない	
⑰ 型枠 の 材料	コンクリート及びコンクリート用材料の試験 ※行う ・行わない せき板の材料 ※1 打抜き仕上げの場合は、表8.1.3のコンクリート表面の仕上げり程度に見合ったものとする。 2 その他の場合は「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」によるB-C又は所要の品質を確保できるものとする。 ○合板の厚さ ※厚さ12mm	

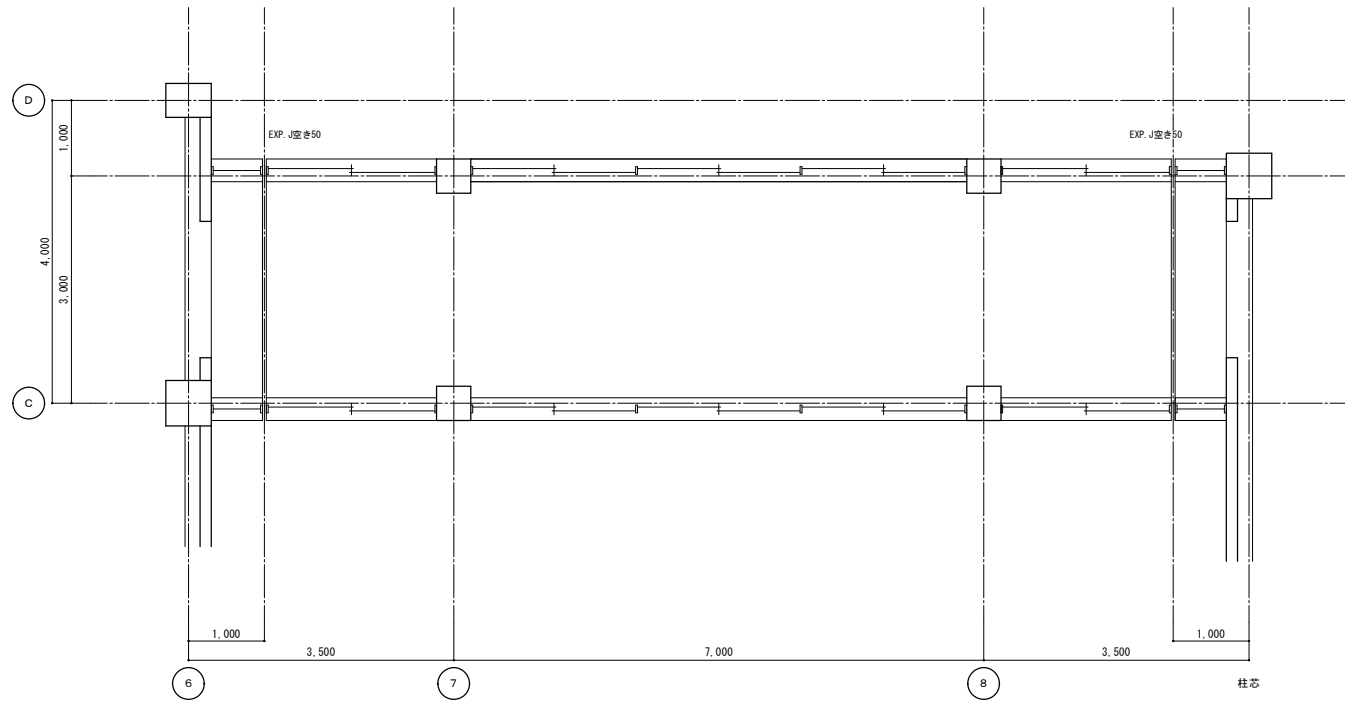


⑧-2 耐震改修工事	1 打増し壁に用いるシアコネクタ	現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ 種類 ※「24 あと施工アンカーの材料」による 間隔 (mm) ※500×500 図示	[8. 2. 4]
	2 増設・補強工事のコンクリートの打込み	工法の種類 [8. 19. 8] [8. 21. 5] 流し込み工法または圧入工法	[8. 21. 5]
	3 柱補強	工法の種類 [8. 21. 5] ・S R F補強材巻立て補強 ・ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む 図示 (RC増打補強)	[8. 21. 5]
	4 連続繊維シート巻き	材料・形状 [8. 2. 11] 採用した工法の規定を満足するもの 材質 引張り強度 (含浸硬化後) ・2500N/mm ² 以上 ・3000N/mm ² 以上 ヤング係数 (含浸硬化後) ・2.35×10 ⁴ N/mm ² 程度 ・2.00×10 ⁴ N/mm ² 以上 工法 [8. 21. 7] ※ (財) 日本建築防災協会の評価を受けた工法 ・ 下地調整 [8. 21. 7] 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 柱の隅角部の面取り [8. 21. 7] ※工法の詳細内容による	[8. 2. 11] [8. 21. 7] [8. 21. 7]
	5 スリットの施工	スリット部の配管等の調査 [8. 22. 2] ※調査箇により調査し、配管等の位置の量出を行う ・はつり出し	[8. 22. 2]

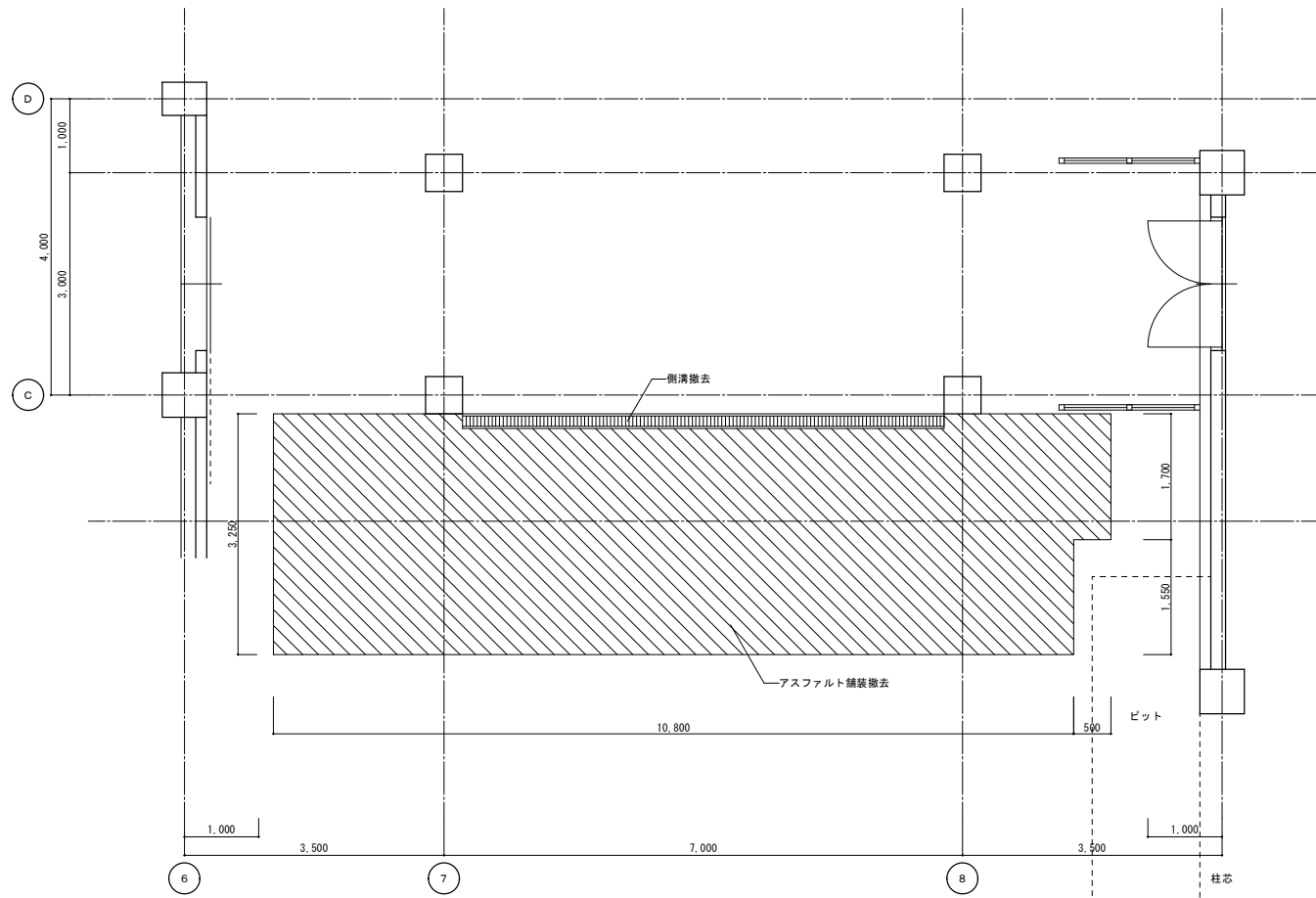
⑨ 環境配慮改修工事	1 アスベスト含有調査	分析による確認 ・行う (下表による)																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>調査方法</th> <th>1材料あたりの試料数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (3 ・)</td> <td>※定量分析 (※3 ・)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (3 ・)</td> <td>※定量分析 (※3 ・)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (3 ・)</td> <td>※定量分析 (※3 ・)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※定性分析 (3 ・)</td> <td>※定量分析 (※3 ・)</td> </tr> </tbody> </table> <p>定性分析は厚生労働省通達H7.6.22付基安発第0622001号「建材中の石棉含有率分析方法」(以下「分析方法」という。)に基づく定性分析まで行う。定量分析は分析方法に基づくエクスクルージョン分析法による定量分析を行う。(ただしH8.3.29付基安発第188号「建築物の耐火等吹付け材の石棉含有率の半定方法について」による分析は行わないこと)</p>	材 料 名	調査方法	1材料あたりの試料数		※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)		※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)		※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)		※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)													
	材 料 名	調査方法	1材料あたりの試料数																											
		※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)																											
		※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)																											
	※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)																												
	※定性分析 (3 ・)	※定量分析 (※3 ・)																												
2 アスベスト除去工事	吹付けアスベストの施工数量調査 [9. 1. 2] [表9. 1. 1. 2] ※ 行う アスベスト粉じん濃度測定 ※ 行う 表9. 1. 1及び表9. 1. 2による他、関係法令及び関係条例に定める方法により測定する。 除去工事を行う当該建築物の敷地境界において、規制のある場合はその規制に従う。 吹付けアスベストの除去範囲の家具等及び設備機器 ・劣化・損傷によりたい積したアスベスト除去を行う。 除去範囲、除去方法は図示 ・養生内の電灯設備等の取外し、撤去を行う。 除去範囲、除去方法は図示 吹付けアスベストのアスベスト処理後の機能回復のための工事 ※図示 [9. 1. 1]	[9. 1. 2] [表9. 1. 1. 2] [9. 1. 1]																												
3 アスベスト含有保温材等の処理工事 (レベル2)	一般事項 関係法令、都道府県の条例等を遵守し、必要な官公署手続き及び処理工事作業を行う。 アスベスト含有保温材等の施工数量調査 ※行う 9. 1. 2(a) (i) 及びアスベスト含有保温材等の種類の確認 [9. 1. 2] [表9. 1. 1~9. 1. 2] アスベスト粉じん濃度測定 ※行う 測定室 図示 測定室 図示 表9. 1. 1及び表9. 1. 2による他、関係法令及び関係条例に定める方法により測定する。 設備配管の保温材の撤去 ・行う 図示	[9. 1. 2] [表9. 1. 1~9. 1. 2]																												
4 アスベスト成形板の処理等 (レベル3)	処理を行うアスベスト成形板の仕様等 [9. 1. 3] <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名 (製品名)</th> <th>含有するアスベストの種類</th> <th>含有率</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 便所 (天井)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table>	材料名 (製品名)	含有するアスベストの種類	含有率	処理を行う範囲				※ 便所 (天井)				※ 図示				※ 図示				※ 図示				※ 図示				※ 図示	[9. 1. 3]
材料名 (製品名)	含有するアスベストの種類	含有率	処理を行う範囲																											
			※ 便所 (天井)																											
			※ 図示																											
			※ 図示																											
			※ 図示																											
			※ 図示																											
			※ 図示																											
5 外断熱改修工事	断熱材の種類 [9. 3. 2] <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム (ノンフロン) [G] ・ロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム (ノンフロン) [G] ・フェノールフォーム</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム (ノンフロン) [G] ・グラスウール</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 外装材の種類 [9. 3. 2] <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>防火性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 既存外壁の仕上材の撤去 ・有り ・なし [9. 3. 3] 下地面の清掃及び下地調整 ※断熱材製造所の指定する仕様 通気層 ・有り (mm) ・なし [9. 3. 4] 試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける 特記無き事項は、製造所の仕様による。	材 料 名	厚さ (mm)	・ビーズ法ポリスチレンフォーム (ノンフロン) [G] ・ロックウール		・硬質ウレタンフォーム (ノンフロン) [G] ・フェノールフォーム		・押出法ポリスチレンフォーム (ノンフロン) [G] ・グラスウール			防火性能	-		[9. 3. 2] [9. 3. 2] [9. 3. 3] [9. 3. 4]																
材 料 名	厚さ (mm)																													
・ビーズ法ポリスチレンフォーム (ノンフロン) [G] ・ロックウール																														
・硬質ウレタンフォーム (ノンフロン) [G] ・フェノールフォーム																														
・押出法ポリスチレンフォーム (ノンフロン) [G] ・グラスウール																														
	防火性能																													
-																														
6 ガラス改修工事	複層ガラスの厚さ 建具表による 断熱性・日射遮蔽性による区分 ※ U3-1 ・ U3-2 [9. 4. 2]	[9. 4. 2]																												
7 屋上緑化改修工事	システムの種類 [9. 6. 1] ・管理型 ・省管理型 その他特記事項は図示 質量の上限値 () kg/m ²	[9. 6. 1]																												

⑨ 環境配慮改修工事	⑧ 透水性アスファルト舗装改修工事	路盤材料 [9. 7. 4] [表9. 7. 5] ※再生クラッシャーラン (RC-40) ・クラッシャーラン (C-40) 又はクラッシャーランスラグ (CS-40) 透水性の高いものを使用する 遮断層及び凍上抑制層の材料 [9. 7. 3] ・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示 ・凍上抑制層 ※再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン 切り込み砂利 ・砂 厚さは図示 盛り土に用いる材料 [9. 7. 3] [表9. 7. 1] ・A種 ※B種 ・D種 路床安定処理 [9. 7. 3] [表9. 7. 3] ※添加材料による安定処理 種類 ・普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種 ・高炉セメント B種 [G] ・生石灰 () ・消石灰 () 添加量 kg/m ³ (目標CBR ※5以上 ・) 路床土の支持力試験 ※行う (※乱した土 ・乱さない土) 路床締固めの試験 ※行う アスファルト混合物 [9. 7. 6] [表9. 7. 7] 車道部 ※改質アスファルト I 型 歩道部 ※ストレートアスファルト 透水性舗装 [9. 7. 9] アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・行う	[9. 7. 4] [表9. 7. 5] [9. 7. 3] [9. 7. 3] [表9. 7. 1] [9. 7. 3] [表9. 7. 3] [9. 7. 6] [表9. 7. 7] [9. 7. 9]
	9 PCB含有シーリング材処分	・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する。 採取箇所数 計 箇所 採取箇所 ※図示 ・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う 分析回数 計 箇所 ・除去処理工事 除去範囲 ※図示	

改修前

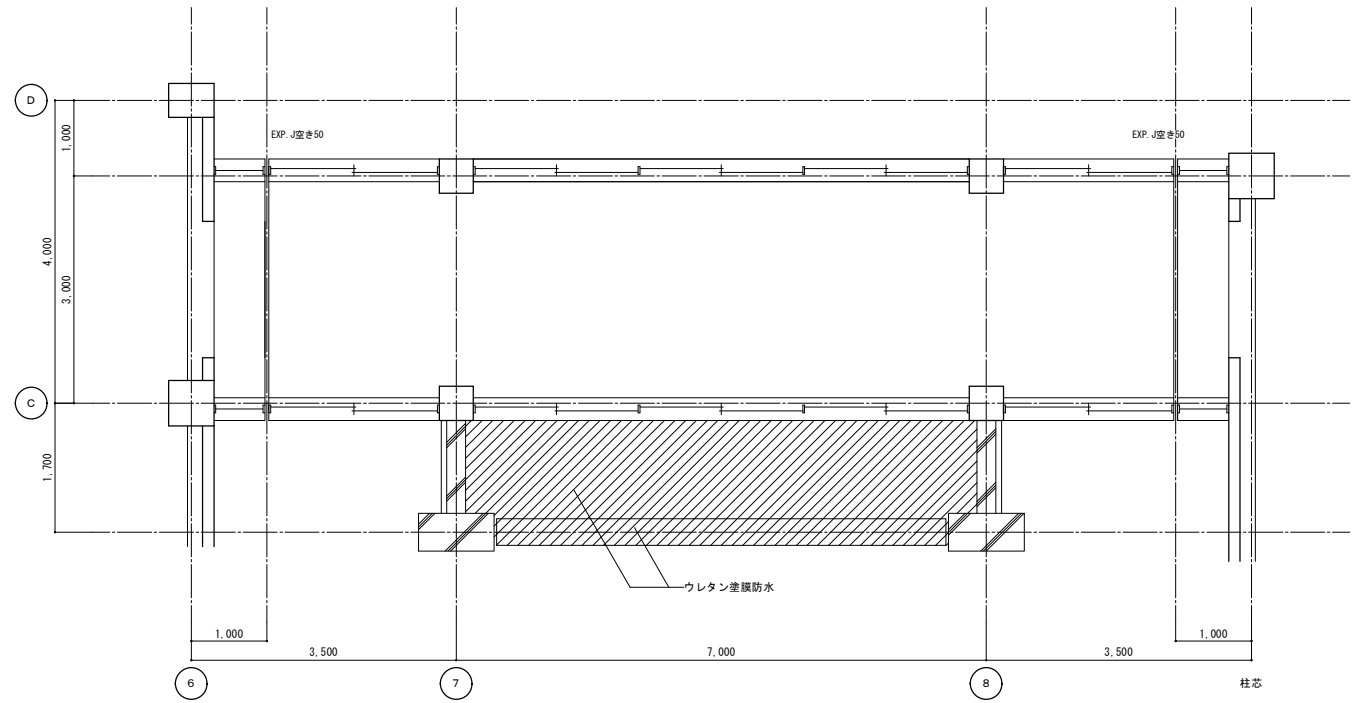


2階平面図 S=1/50

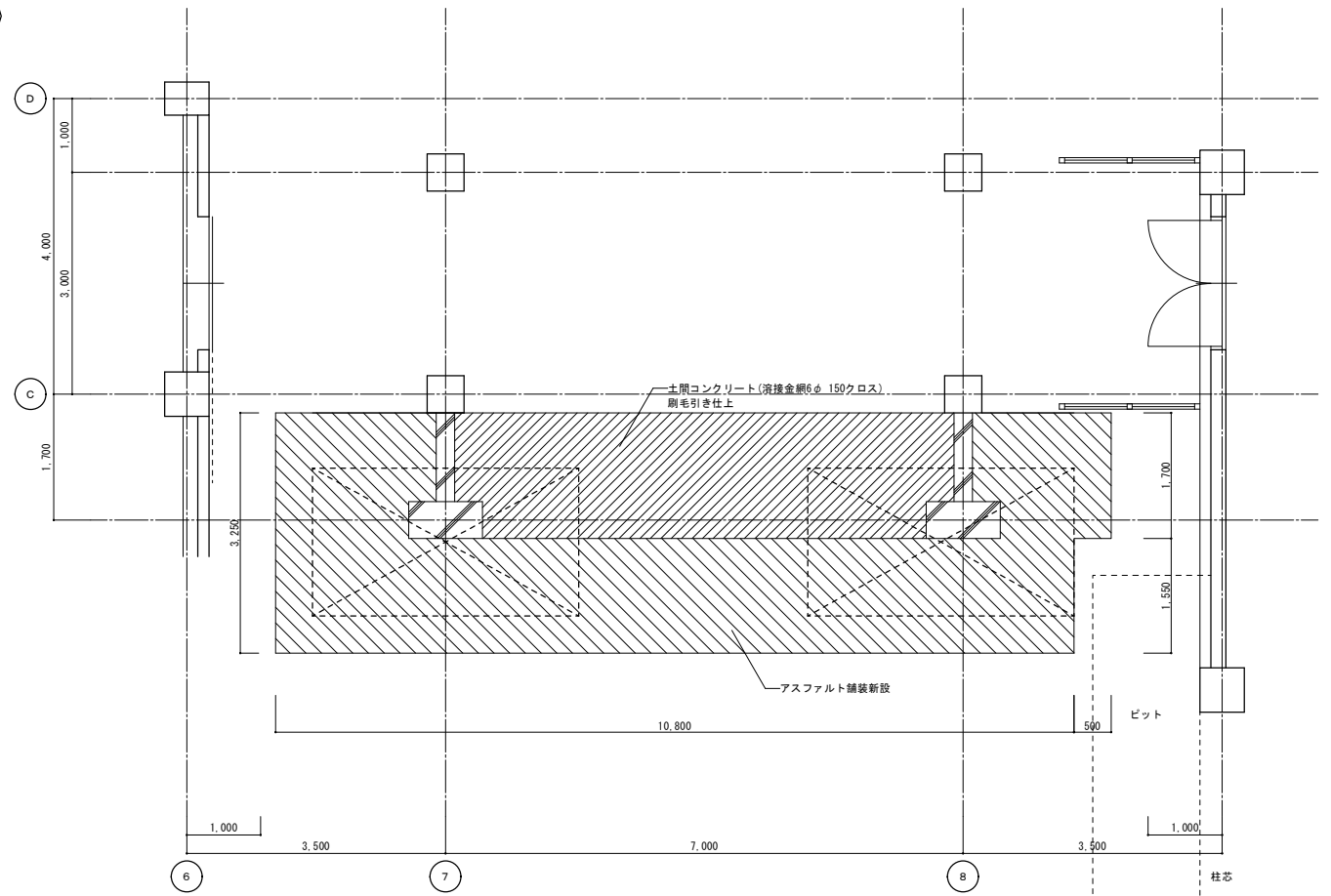


1階平面図 S=1/50

改修後



2階平面図 S=1/50



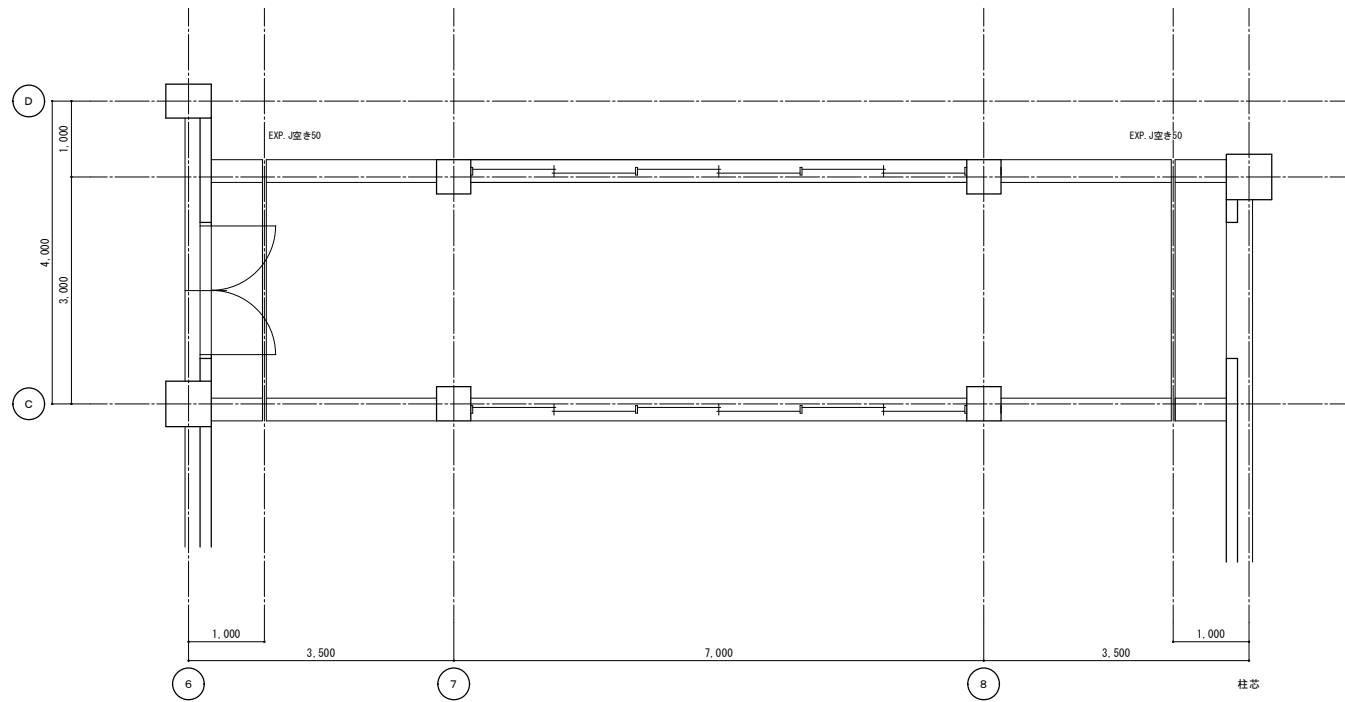
1階平面図 S=1/50

月	日	訂正者	訂正内容

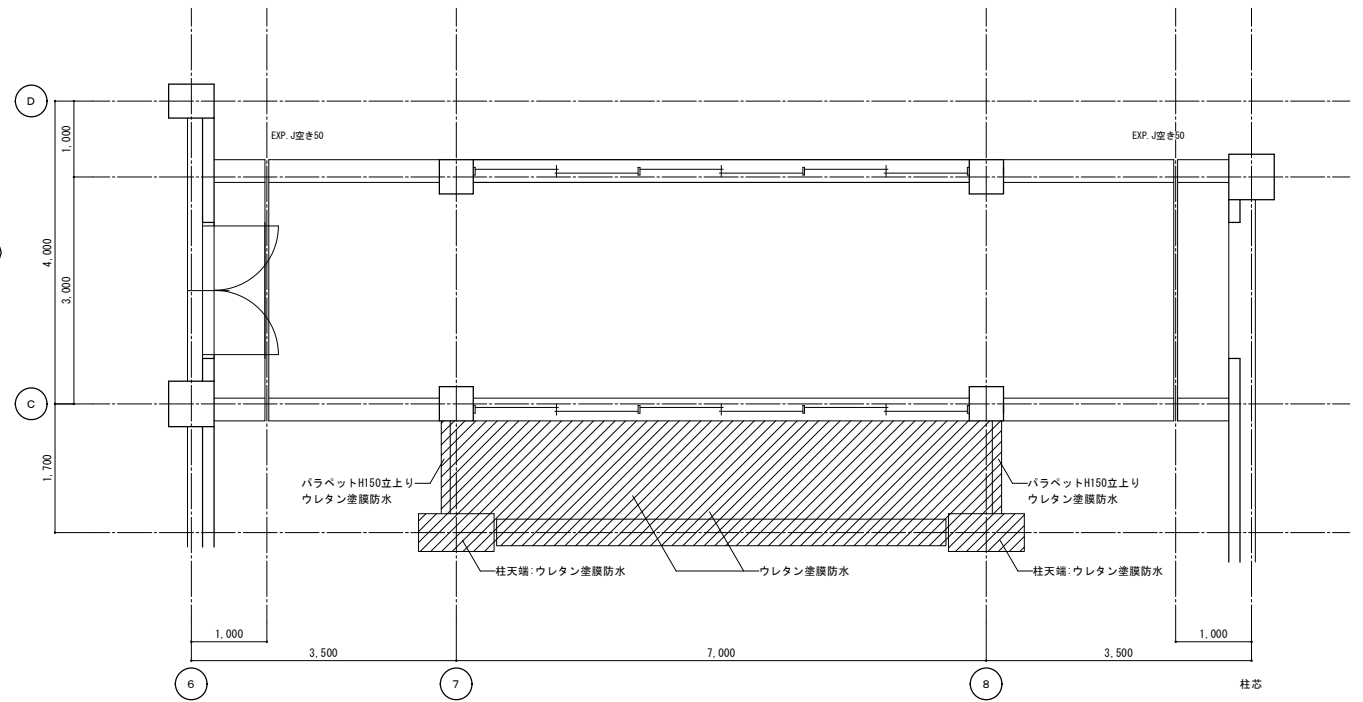
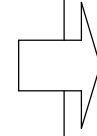
コード №	作成年月日	承認	名称	図面 №
FD №	発行年月日	担当	国立淡路青少年交流の家 波り廊下棟耐震補強工事	A-07
			図面名称	縮尺
			1-2階平面図	1/50

改修前


改修後



3階平面図 S=1/50



3階平面図 S=1/50

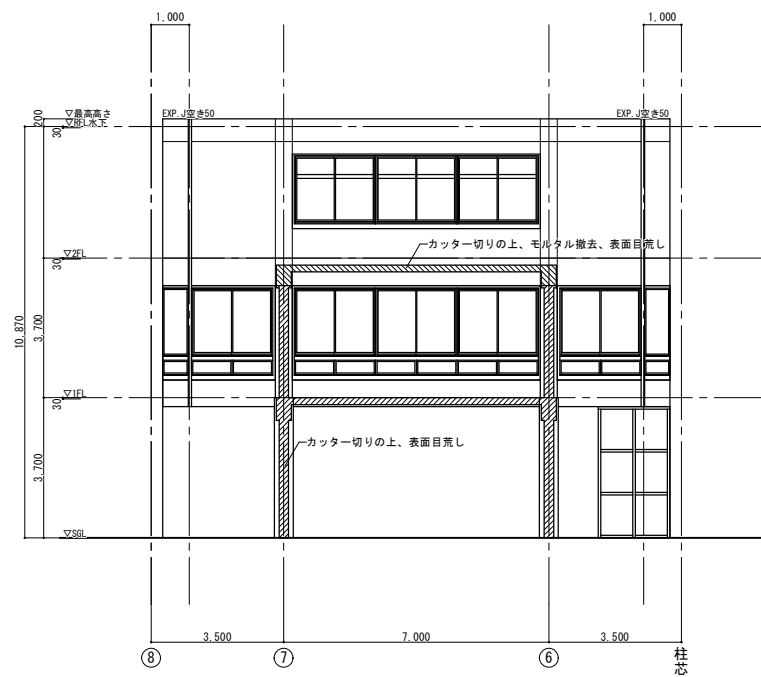
 : ウレタン塗膜防水範囲を示す

月	日	訂正者	訂正内容

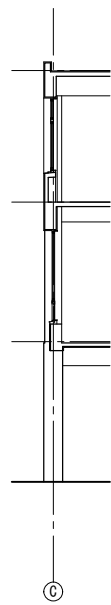
コード №	作成年月日	承認	名称	図面 №
FD №	発行年月日	担当	国立淡路青少年交流の家 波り廊下棟耐震補強工事	A-08
			図面名称	縮尺
			3階平面図	1/50

改修前

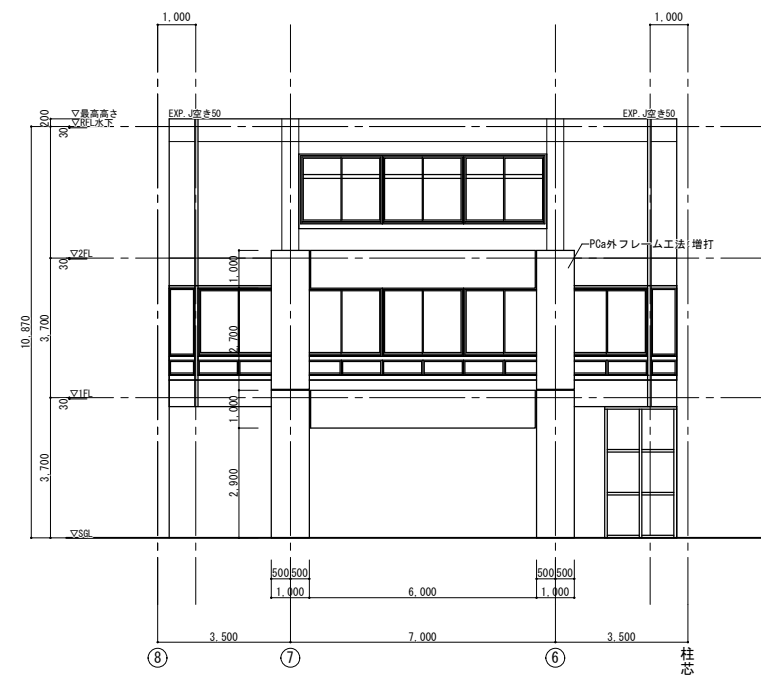
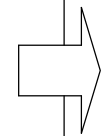
改修後



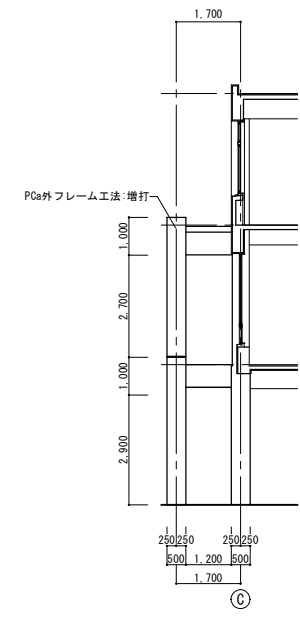
北立面図 S=1/100



西立面図 S=1/100



北西立面図 S=1/100

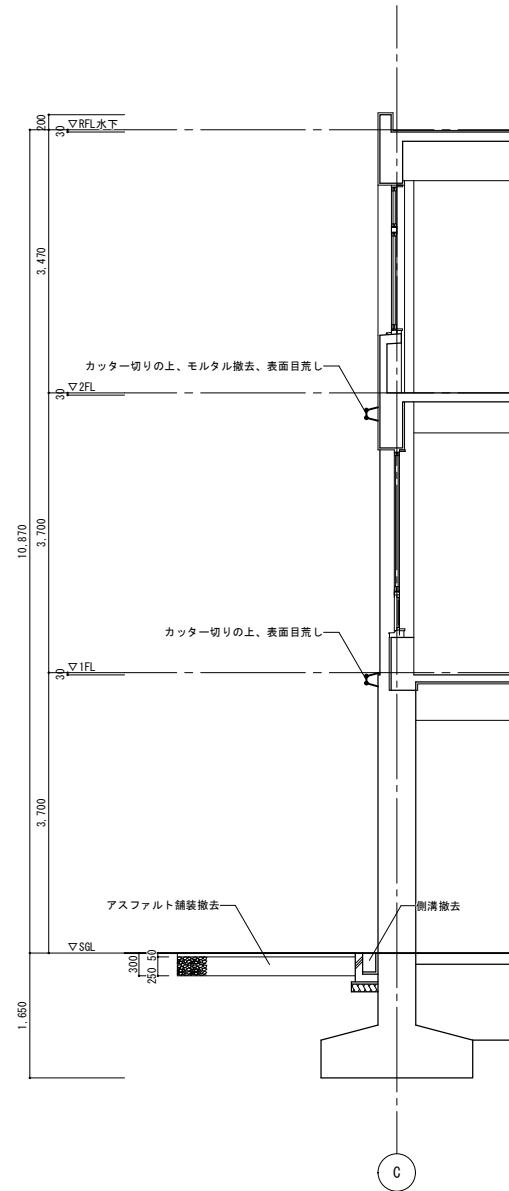


西立面図 S=1/100

月	日	訂正者	訂正内容

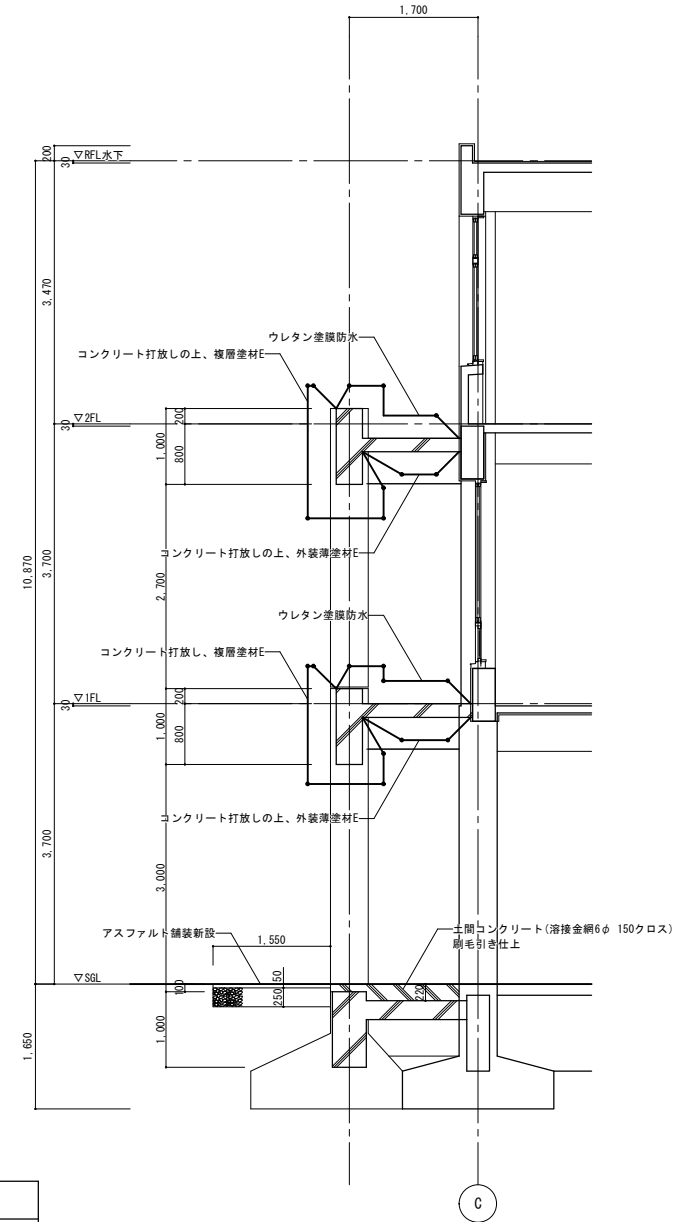
コード №	作成年月日	承認	名称	図面 №
FD №	発行年月日	担当	国立淡路青少年交流の家 渡り廊下棟耐震補強工事	A-09
			図面名称	縮尺
			立面図	1/100

改修前



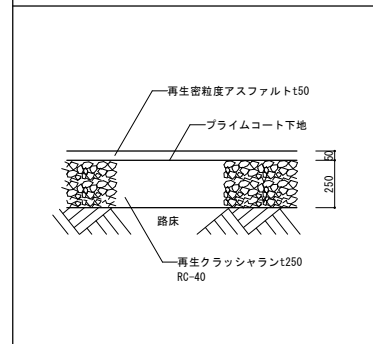
断面図 S=1/50

改修後



断面図 S=1/50

アスファルト舗装詳細図 S=1/20



月	日	訂正者	訂正内容

コード No.	作成年月日	承認	名称	図面 No.
FD No.	発行年月日	担当	国立淡路青少年交流の家 波り廊下棟耐震補強工事	A-10
			図面名称	縮尺
			断面図	1/20, 50

プレキャストコンクリート工事仕様書

1. 一般事項

a. 適用の範囲

本仕様書は、本工事の内

- (1) . プレキャスト柱 (以下PC柱という)
- (2) . プレキャスト大梁 (以下PC大梁という)

及び、これに付随する部分について適用する。

b. 準拠基準・規程

本仕様書・特記仕様書ならびに設計図書に図示されていない事項は、

- (1) . 全国官報販売協同組合『2009年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』
- (2) . 日本建築学会『プレストレストコンクリート設計施工規程・同解説』
- (3) . 日本建築学会『プレストレスト鉄筋コンクリート (Ⅲ種PC) 構造設計・施工指針・同解説』
- (4) . 日本建築学会『鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説』
- (5) . 日本建築学会『建築工事標準仕様書・同解説 (JASS5) 鉄筋コンクリート工事』
- (6) . 日本建築学会『建築工事標準仕様書・同解説 (JASS10) プレキャストコンクリート工事』

による。

又、これらに指示されていない事項は、監督職員の指示によるものとする。

ただし、グラウト工事についてはプレストレスト・コンクリート建設業協会『PCグラウト施工マニュアル 建築編』による。

c. 構造方式・プレストレス導入方式

本建築物のプレストレス導入方式は下記の通りとする。

- (1) . PC柱・PC大梁は工場に於いて、プレキャスト部材として製作する。
- (2) . PC大梁は、現場に於いてポストテンション方式でプレストレスを導入する。

d. 製作要領

プレキャスト部材の製作にあたっては事前に調合計画、製造方法、養生方法等を検討し、「製作要領書」を監督職員に提出して、その承諾を受けた後に製作を行うものとする。

又、使用材料のミルシートを提出するものとする。

e. 施工計画

施工の順序・方法・工程等の施工計画は、工事着手前によく検討し、「施工計画書」を監督職員に提出して、その承諾を受けた後に施工を行うものとする。又、PC鋼材のミルシートを提出するものとする。

2. 材料

a. 鉄筋

鉄筋コンクリート用棒鋼	(JIS G 3112)	SD295A D16以下
		SD345 D19以上~D25以下
		SD390 D29以上

b. PC鋼材

PC鋼より線 (JIS G 3536)

(1) . ポストテンション部材

使用場所	PC大梁	
使用鋼材	SWPR7BLφ12.7mm	
引張荷重	183.00 kN/本	
降伏荷重	156.00 kN/本	
許容引張荷重	導入時	132.60 kN/本
	定着完了時	124.80 kN/本
導入作業時緊張力	124.8 kN/本	
伸び	3.5%以上	

※一時的に過緊張する場合には降伏荷重の0.9倍まで許容するものとする。

c. 鉄筋継手

(財)日本建築センターのA級継手としての評定または評価を取得している継手工法とする。

d. セメント

セメントはJIS R 5210に規定する普通または早強ポルトランドセメントを原則とする。

e. コンクリート

コンクリートの品質は下表の通りとし、その調合は試験練りにより定めることを原則とする。但し、試験練りの実施については、製造工場に実績がある場合は省略することも出来るものとする。

使用場所		PC柱	PC大梁	現場打ち部
設計基準強度	N/mm ²	50	50	24
プレストレス導入時圧縮強度	N/mm ²	36	36	—
粗骨材最大寸法	mm	20	20	—
スランプ	cm	12	12	—

f. 混和材

コンクリート中に混和材を用いる場合は、その品質・使用量について監督職員の承諾を受けるものとする。

g. プレストレッシング定着工法

(財)日本建築センターの評定または評価を取得している定着工法 (VSL工法等)とする。

3. 型枠及びPC鋼材の配置

a. プレキャスト部材の型枠は、鋼製とし、振動・取り外し・組立・放置等の為に狂いが生じないように充分強固にし、コンクリート打設作業中に支障のないように製造するものとする。

b. PC鋼材は所定位置に正しく配置し、コンクリート打設作業中に狂いが生じないように、組立鉄筋・スターラップ等に緊結するものとする。

c. PC鋼材位置の許容誤差は下記によるものとする。

部材の最小寸法が60cm未満の部分	±1.0 cm
部材の最小寸法が60cm以上の部分	±1.5 cm

上記の許容差は、垂直・水平の方向に別々に適用するものとする。

4. コンクリートの打ち込み、養生

- a. コンクリートの打ち込みにあたっては、打設方法・締め固め・養生方法等についてあらかじめ監督職員の承諾を受けるものとする。
- b. コンクリートは層状に端部より中央に打ち進め、間断なく作業するものとする。
- c. コンクリートの打ち込みには、型枠振動機又は内部振動機を用いて充分振動締め固めを行うものとする。
- d. コンクリート打設後は充分な湿度を与え養生するのはもちろんであるが、プレストレス導入に要する強度に達するまでは特に慎重に養生するものとする。

5. 試験及び検査

- a. コンクリートの圧縮試験用供試体は、直径10cm・高さ20cmの標準供試体モードを用いて製作する。
- b. プレストレス導入時の圧縮強度試験用供試体の養生は製作中の部材と同一養生とし、材令28日の圧縮強度試験用供試体の養生は標準養生とする。
- c. プレストレス導入時の圧縮強度試験及び材令28日の圧縮強度試験は、それぞれ一回の打設につき3個の供試体について行い、その結果を記録するとともに監督職員に報告するものとする。
- d. 材令28日の圧縮強度が、試験の結果所要の強度に達しない部材は、不合格とする。

6. プレストレッシング

- a. プレストレス導入の時期は、コンクリートの圧縮強度が 2. 材料 e. コンクリート に示すプレストレス導入時圧縮強度に達した後とする。
- b. プレストレッシングの管理は、ジャッキ圧力計の張力とPC鋼材の伸び量を測定して行うものとする。

7. グラウト工事

a. 目的

グラウトは、PC鋼材を十分に包み込みPC鋼材を錆びさせないように保護するとともに、PC鋼材とコンクリートとの付着を得ることを目的とする。

b. 配合

グラウトの配合は次を標準とし、設計基準強度は30 N/mm²とする。

セメント・・・普通ポルトランドセメント

水	セメント	比	45%以下
混和剤 (ノンブリーディングタイプ)			セメント量の1.0%

グラウトの練り混ぜは電動グラウトミキサーを使用するものとする。

c. 強度試験

グラウトの圧縮試験用供試体は、直径5cm・高さ10cmの標準供試体モードを用いて製作する。グラウトの材令28日の圧縮強度試験は、注入作業日の1パッチ目に1回で3個の供試体について行い、その結果を記録するとともに監督職員に報告するものとする。

d. 作業

- (1) . シース内の閉塞の有無を確認する。
- (2) . グラウトの注入は、グラウトポンプを用いシース内に空隙を残さないように入念に行う。
- (3) . 排出孔より流出するグラウトが注入孔より注入するものと同じ濃度になるまで注入を続け、排出孔を塞ぐ。
- (4) . 排出孔を塞いだ後に続いて注入孔を塞ぐ。

8. 目地モルタル

PC柱・大梁の接合部の目地に用いるモルタルは無収縮モルタルとし、設計基準強度は部材本体のコンクリート設計基準強度以上とする。また、プレストレス導入時圧縮強度は 24 N/mm²以上とする。

9. PC鋼材の端部処理 (保護モルタル)

PC鋼材定着具の露出部は、プレストレス導入後すみやかに無収縮モルタルで完全に保護するものとする。

10. 架設及び据え付け

- a. 据え付けは、所定の位置・高さに正確に据え付けるものとする。
- b. 1階柱脚部のPC柱取合い用柱主筋はテンプレート等を作成し、所定の位置に正確に配置するものとする。尚、寸法に誤差が生じた場合は監督職員と協議の上、対処方法を決定するものとする。

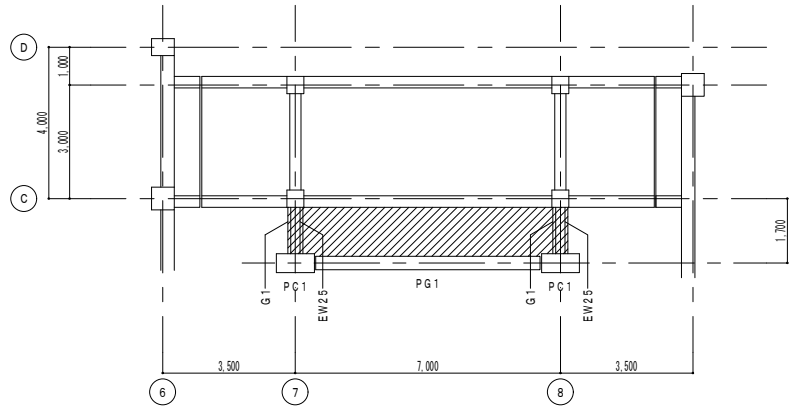
11. 建方手順

- a. 現場打ち基礎部に柱脚部アンカー筋 (鉄筋) の配置
- b. 現場打ち基礎部コンクリート打設
- c. PC柱の建方
- d. PC大梁の建方
- e. PC大梁の緊張 (片引きとする。)
- f. PC柱の鉄筋接合
- g. 各階c~fの繰り返し

※ 現場打ちスラブの打設は各階ともPC大梁の緊張、PC柱の鉄筋接合終了後に行うものとする。

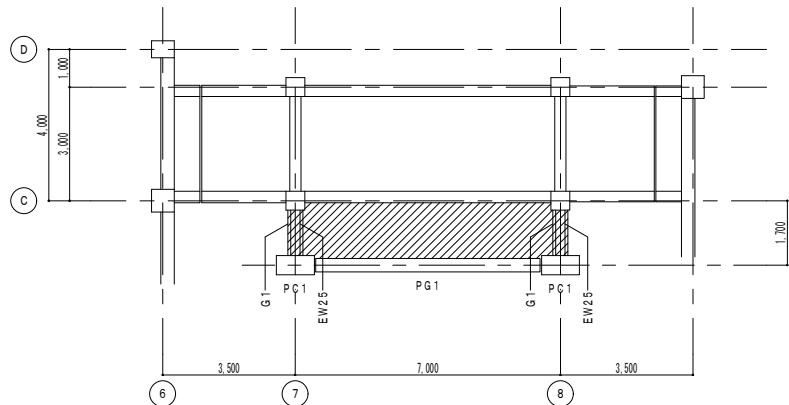
12. PC専門業者

プレキャストコンクリート工事の施工は、同様の工事の実績が多数ある、外付けフレーム耐震補強工法の (財)日本建築防災協会の技術評価または、(財)日本建築総合試験所の建築技術性能証明を有するPC専門業者 (株式会社 建研、オリエンタル白石株式会社、株式会社ピーエス三菱の3社のうち1社) の責任施工とする。尚、施工の範囲はPC柱・大梁の製作、運搬、架設、据え付け、およびPC鋼材の配置・緊張・グラウトまでの一式とする。



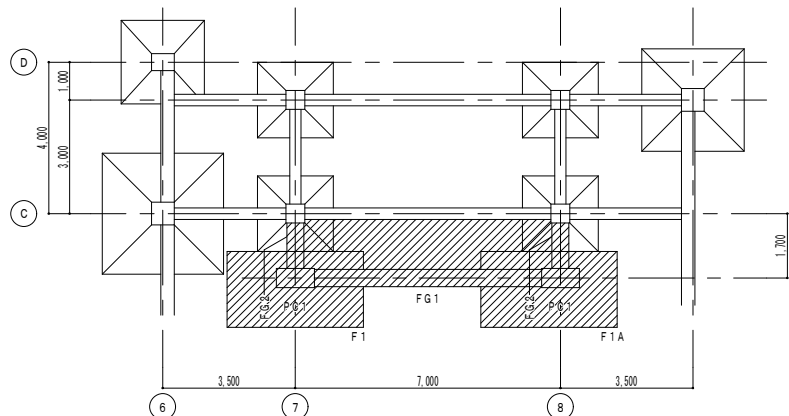
1階柱壁2階梁 伏図 S=1:100

※ 符号 (P) 付き部材はプレキャスト部材を示す。
※ 斜線は現場打ち部を示す。



B1階柱壁1階梁 伏図 S=1:100

※ 符号 (P) 付き部材はプレキャスト部材を示す。
※ 斜線は現場打ち部を示す。



基礎 伏図 S=1:100

※ 符号 (P) 付き部材はプレキャスト部材を示す。
※ 斜線は現場打ち部を示す。

柱断面リスト S=1:30

特記なき限り下記による。
1. 柱 joint 位置の主筋は鉄筋継手により接合するものとする。
2. ハネルゾーンのHOPP間隔は150mm以下とし、かつその鉄筋比は0.2%以上とする。

符号	PC1
1階	
構造躯体 D _x ×D _y	1,000×500
主筋	10-D25+4-D19
フープ	□-D13@100
B1階	
構造躯体 D _x ×D _y	1,000×500
主筋	10-D25+4-D19
フープ	□-D13@100

梁断面リスト S=1:30

特記なき限り下記による。
1. 幅止め筋はD10@1,000以内とする。

符号	PG1
2階	
構造躯体 B _x ×D	350×1,000
上端筋	2-D22
下端筋	2-D22
スターラップ	□-D13@100
腹筋	6-D10
PC鋼材	4C-5-SWPR7BLφ12.7mm
1階	
構造躯体 B _x ×D	350×1,000
上端筋	2-D22
下端筋	2-D22
スターラップ	□-D13@100
腹筋	6-D10
PC鋼材	4C-7-SWPR7BLφ12.7mm

符号	G1
断面	
構造躯体 B _x ×D	400×600
上端筋	4-D19
下端筋	4-D19
スターラップ	□-D13@150
腹筋	2-D10

符号	FG1	FG2
断面		
構造躯体 B _x ×D	450×1,000	450×800
上端筋	8-D25	4-D22
下端筋	6-D25	4-D22
スターラップ	□-D13@200	□-D13@150
腹筋	2-D13	2-D13

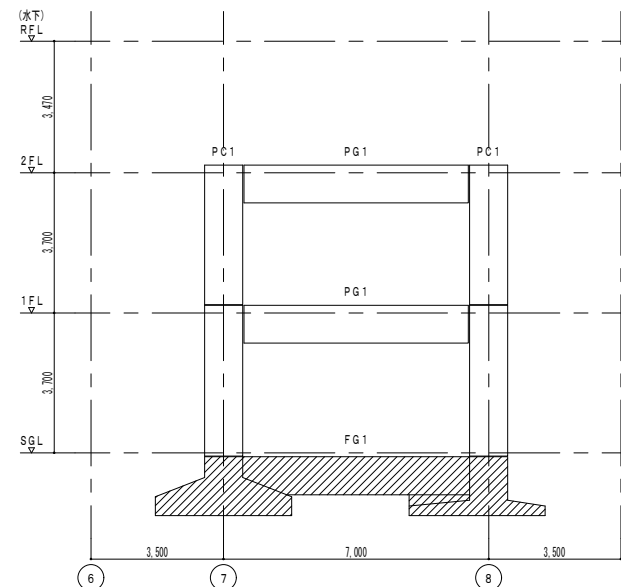
使用材料

コンクリート	設計基準強度	F _c = 50 N/mm ²
	導入時強度	F _{ci} = 36 N/mm ²
現場打ち部	設計基準強度	F _c = 24 N/mm ²
PC鋼材	名称	SWPR7BL φ12.7mm
	引張荷重	P _u = 183.0 kN/本
	降伏荷重	P _y = 156.0 kN/本
	許容引張荷重	
鉄筋	導入時	132.6 kN/本
	定着時	124.8 kN/本
	導入作業時緊張力	124.8 kN/本
		SD390 (D29以上)
	SD345 (D19~D25)	
	SD295A (D16以下)	

※一時的に過緊張する場合には降伏荷重の0.9倍まで許容するものとする。

鉄筋凡例 (PC断面リストに照る)

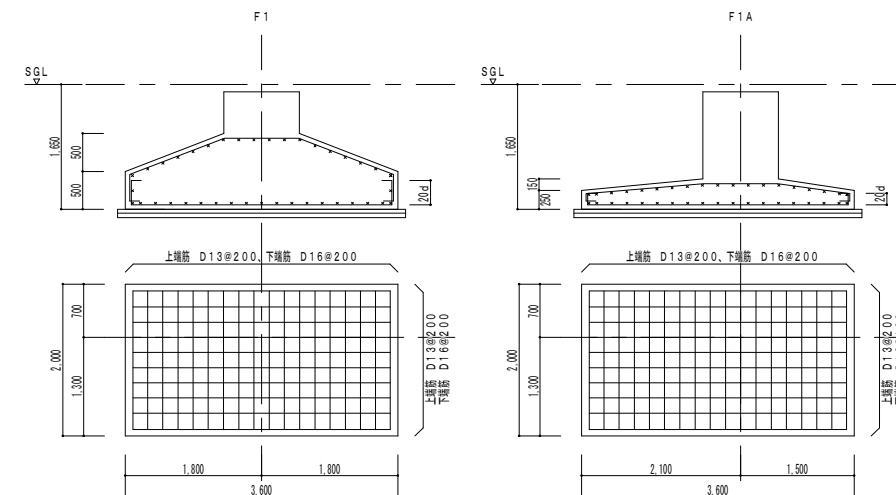
丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	28φ	32φ
異形	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28	D32
記号	○	×	◇	●	○	●	◎	○

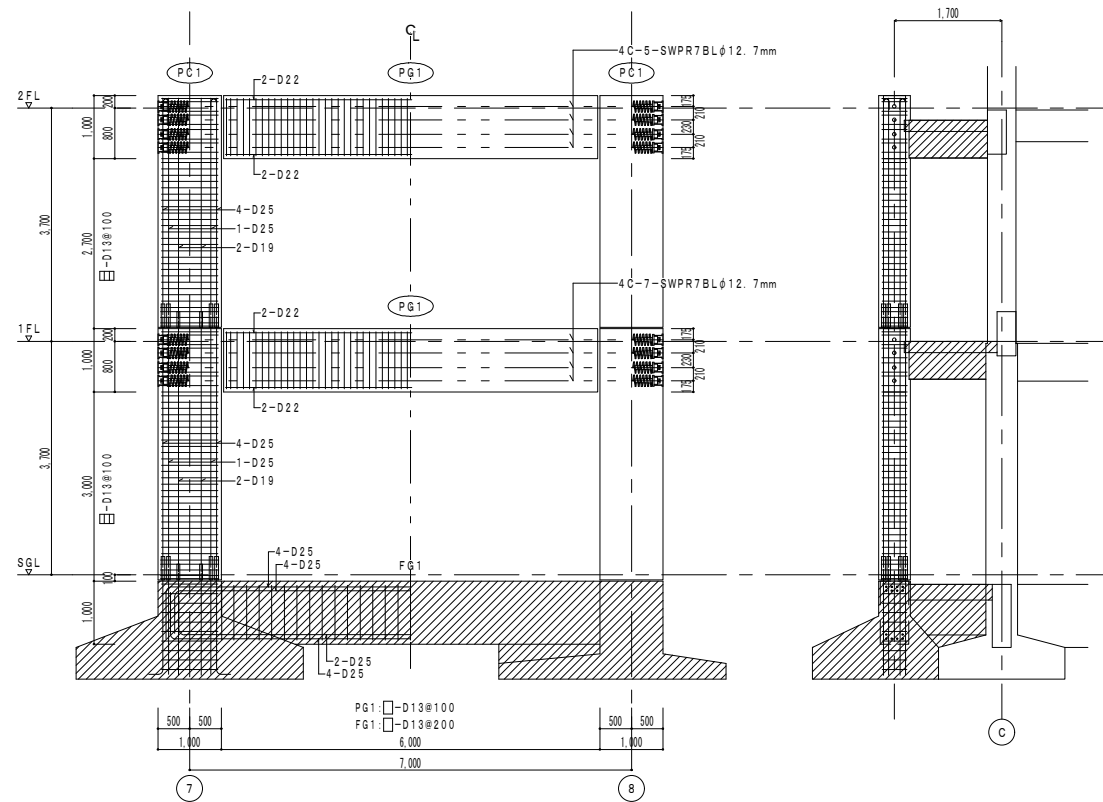


C 通り側 軸組図 S=1:100

※ 符号 (P) 付き部材はプレキャスト部材を示す。
※ 斜線は現場打ち部を示す。

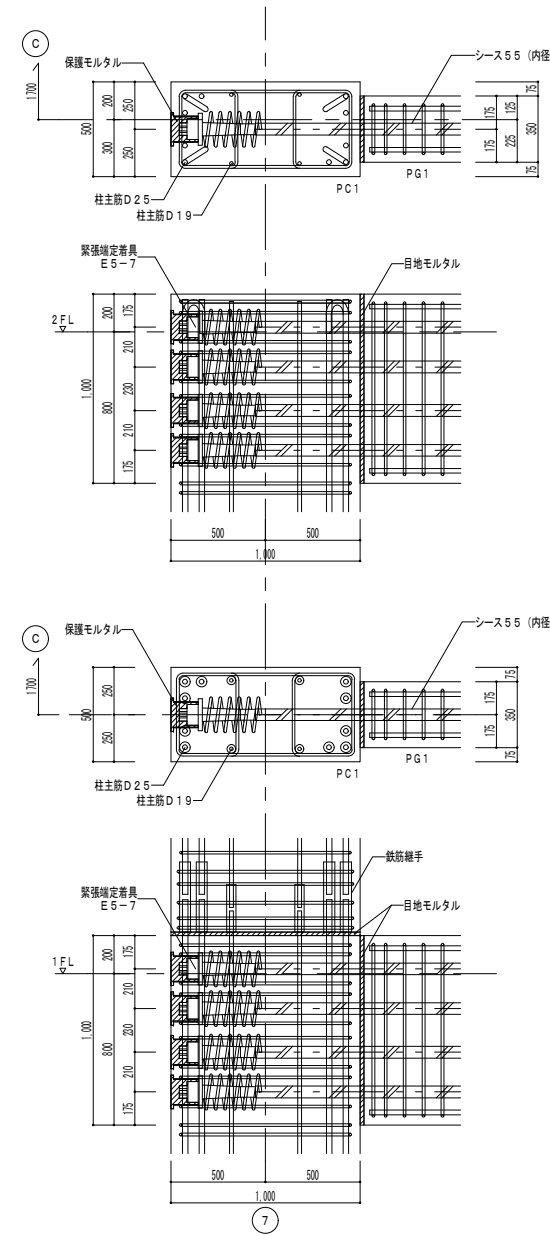
基礎リスト S=1:50





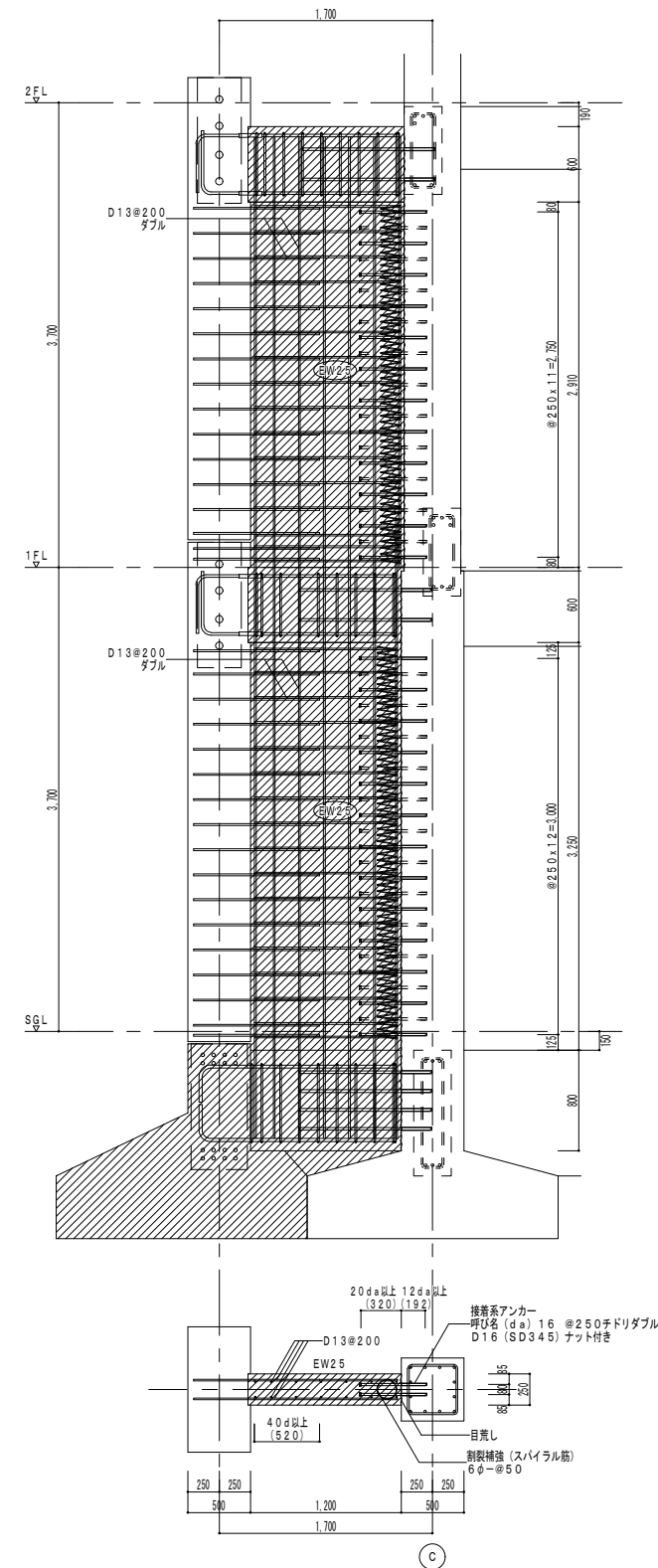
(A) 通り側 配線・配筋架構図 S=1:60

※ 符号 (P) 付き部材はプレキャスト部材を示す。
 ※ 斜線は現場打ち部を示す。



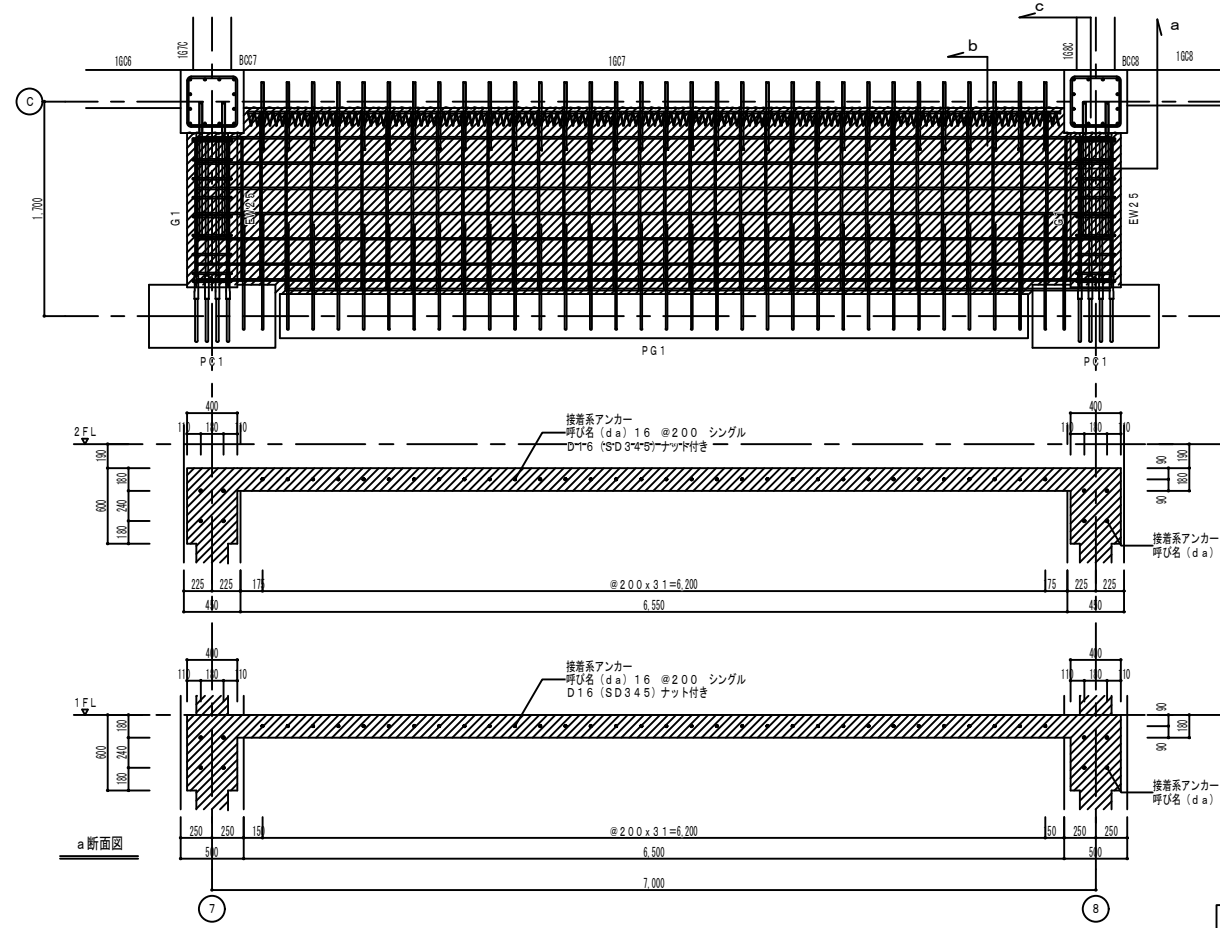
定着端詳細図 S=1:20

※ 符号 (P) 付き部材はプレキャスト部材を示す。

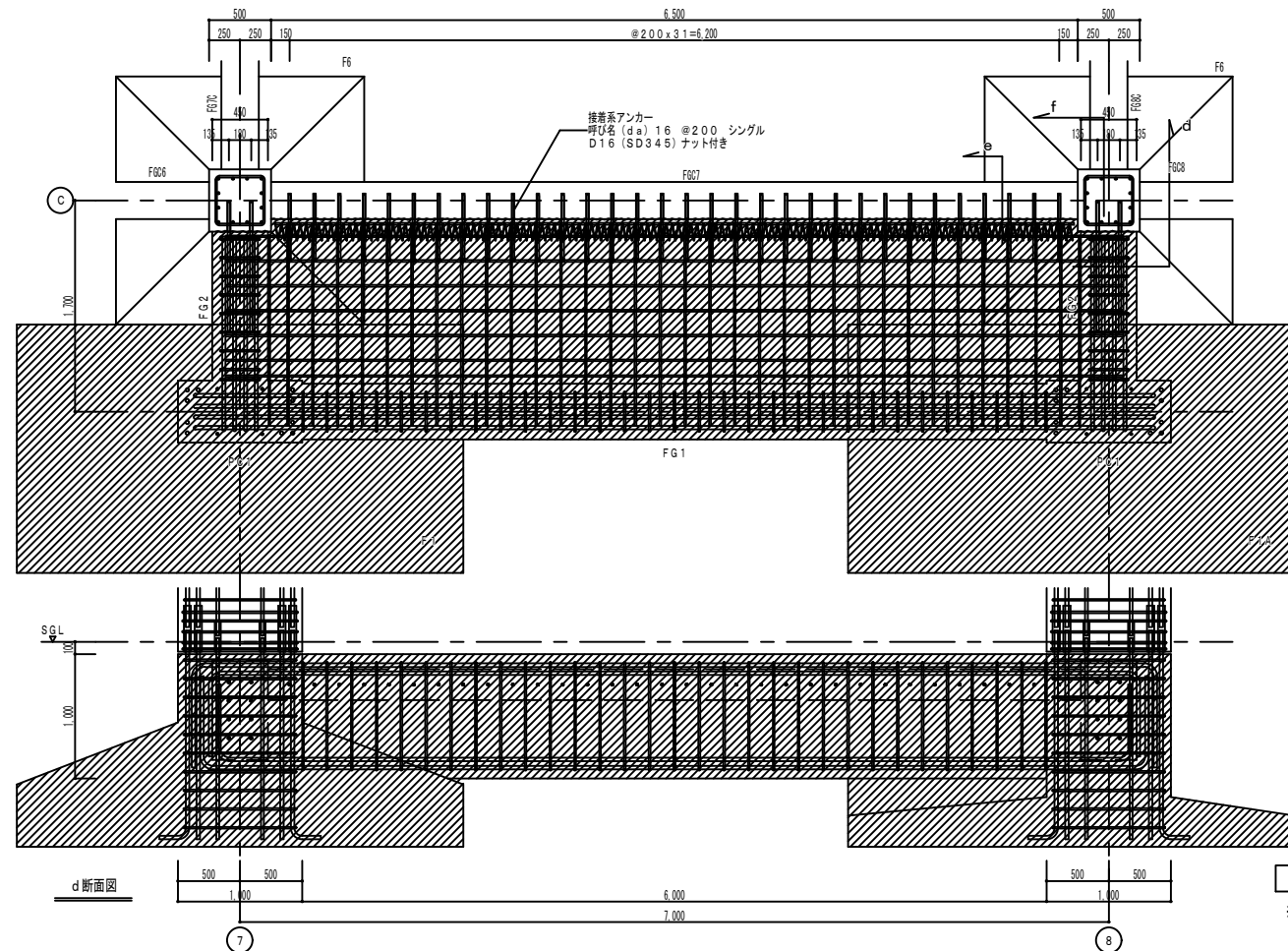
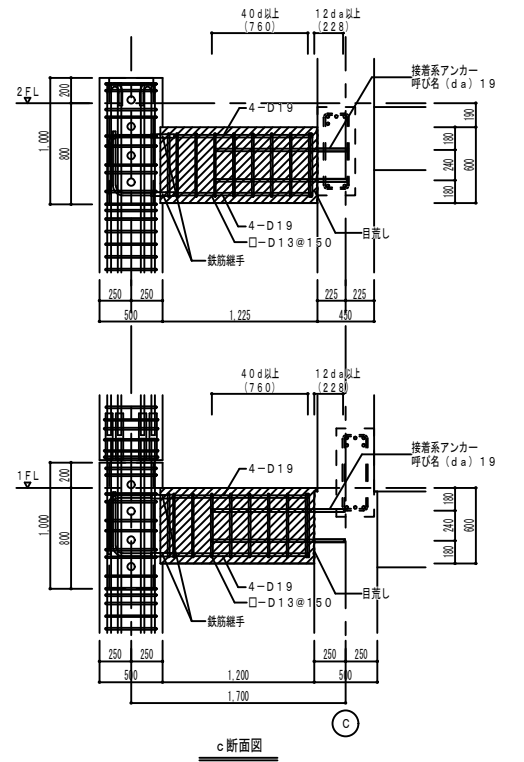
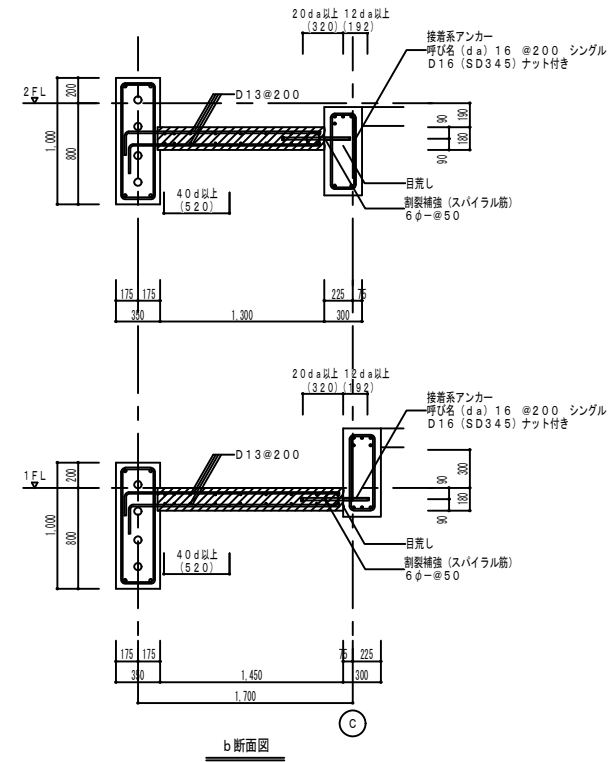


壁部取合詳細図 S=1:30

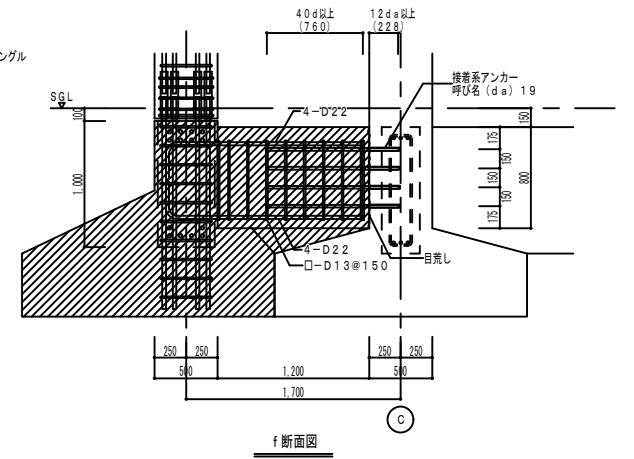
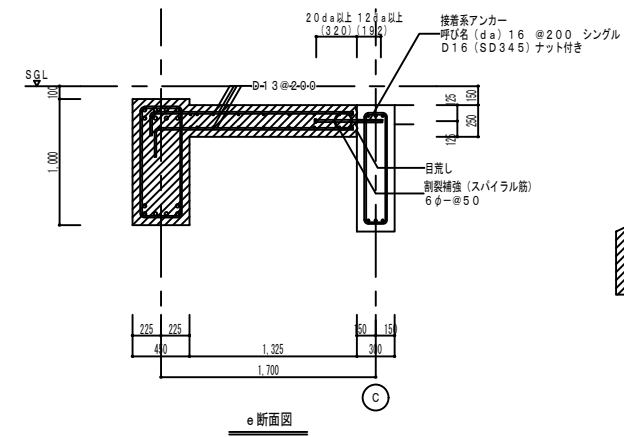
※ 斜線は現場打ち部を示す。



床部取合詳細図 S=1:30
※は現場打ち部を示す。



基礎部取合詳細図 S=1:30
※は現場打ち部を示す。



月	日	訂正者	訂正内容